

4-24 88

和田 豐校閱
高賀 詵三郎 編纂

中等 教育
作文活法

東京 目黒書房發兌

特19
582

和田 豐校閱
高賀 詵三郎 編纂

中等教育
作文活法

東京 目黒書房發兌



緒言

一 論理ノ法ニ從ヒテ思想ノ發達ヲ謀リ修辭ノ則ニ依リテ興味
ヲ誘起ヲ務メ古風ヲ尙ヒテ無用ノ言ヲ用フル弊ヲ去リ實用
ニ馳セテ破格ノ語ヲ採ル陋ヲ去ル是レ本書編述ノ目的ナリ
一 本書ハ論法ヲ以テ類別セルガ故ニ固ヨリ順ヲ逐ヒテ教授ス
ベカラズ教授者ハ先全卷ヲ胸中ニ藏シ生徒ノ學力ニ相應セ
ルモノヲ自由ニ撰擇スルヲ要ス方法ノ如キモ文法教授範文
教授自作法改作法正誤法敷衍法等其自由ニ任ス
一 文題ハ廣ク諸般ノ事項ニ涉リ概シテ卑近ニ偏セリ生徒ノ熟
知セサル事項ニ於テ思想ヲ整理シ語句ヲ組織スルハ能ハザ
ル所ナレバナリ
一 叙述ハ簡質ニシテ一見味ナキカ如キハ作文ヲ以テ美術トシ

テ妄ニ古雅メク言ヲ弄シテ生徒ニ一難ヲ増サシメントスル
弊ヲ防カントテナリサレド事項ニ由リ間々修飾ヲ施シ、モ
アリ

一漢文直譯體ノ動スレバ文法ヲ誤リ意味ヲ昏スモノハ固ヨリ
之ヲ除キタリ但時ヲ省キテ直現法トナルモノ、如キハ強ヒ
テ之ヲ改メズ

一文法上文字上ノ事項ハ附録ナル正誤法ヲ首トシ同訓異義類
似文字等ノ部及欄外處々ニ說示シ之カ注意ヲ促セリ

一日用文體ハ全ク廢セント論スルモノアレドモ元來日用ノ文
章ニ於テハ公衆ノ承認ハ最必要トスル所急激ノ改革ハ實用
ヲ害スルコト少カラズ故ニ本書ハ之ヲ存シ顛倒ヲ廢シ破格
ヲ去リ借字ヲ減シ虚儀ヲ省キ簡易ニシテ實用ニ近カラシム
ルニ止メ其ノ例文ハ新潟縣第一師範學校ノ調査ニ係ル日用

文例ニ則リタリ

一旬讀點括弧等ハ共ニ之ヲ省キ簡略ニ從フ教授者適宜其用ヲ
示サレシコトヲ望ム但勾畫ヲ施セルハ文章ノ節段ヲ明ニス
ル益アレバナリ

明治三十三年十月

編者識ス

中等教育

作文活法目錄

普通文ノ部

普通文組立法

一頁

緒論

文章論

四

文體論

七

文章組織法ノ分類法

一〇

文法各論

一二

普通文章作例

三三

單行文(文題ノ上ニ〇符ナキモノハ應用題ナリ)……………三三

銀 金〇牛豕〇桐 檫 櫨 鯁 蘿葡〇清廉 愛憐〇算術

加法 減法 乘法 除法〇犬猫〇組稅 兵卒〇新嘗祭 神嘗

祭〇儒教ノ傳來 銀行ノ起原 孟蘭盆會〇四方拜 元始祭〇

家族 町村 郡○川中島ノ戰 四條駿ノ戰 仁德天皇○雪合
 戰○肖像ニ題ス○春景ヲ記ス開道ヲ祝ス 架橋落成ヲ祝ス
 卒業ヲ祝ス○祖先ヲ祭ル 謙信ヲ祭ル○二宮尊徳 德川齋昭
 兒島高德○京都市 大坂市○文官 武官○神武天皇 菅原
 道真 延喜天曆ノ治○敬禮 寛恕○重力 無盡性 王政復古
 ○富ヲ恃ムベカラズ 才ヲ恃ムベカラズ○生糸 茶○蠶 楨
 杵 音響○尊王 敬神○源頼朝 楠正成○青砥藤綱 司馬光
 ○日本武尊 武内宿禰○酒ノ害 農ノ苦○倫敦 漢城 北京
 伯林

一正一反法.....六八

學問 報恩 誠實 義勇 忠 博愛 養生 國法 奢侈
 愛 自省 新聞 和親 慎獨 惜陰

一頭兩腳法.....七六

尺度 馬車 衣服 船 友ヲ擇フ 大神宮 米 動物 眼
 孝養 地動 生活 勇氣 朋友 皇靈祭 比例 開方 級數

一頭三腳法.....八七

財本 元素ト化合物ト 職業 宗教 筋 唧筒
 遊戲 傘 貨幣 天然物 鐵 書物 三種ノ神器 寒暖計
 數ノ三稱 生財ノ三要 三景鏡 物ノ三體 農ノ三務 利息
 國體

一頭多腳法.....九五

飲料 野菜 警察 水

比喻法.....九七

兵士 養生 元氣 報恩 護國 立志 節義 豫備
 小ヲ慎ムベシ 獨ヲ慎ムベシ

兩柱分應法.....一〇二

愛敬 少時ト少金ト 親ト師ト 忠孝 勤儉 文武
 人道ト物理ト 信義

累進法.....一〇六

學問 果實 殖産

四

條陳法……………一〇八

山ノ利 食物ノ四質 地球ノ圓ナルヲ論ス
心ハ腦ノ作用ナリ 方言 雪月花 看花ノ四絶

附録……………一一三

俗字 省書文字 多音文字 類似文字 異體同義文字
同訓異義文字 和字 誤訓文字 同音相通文字
文章正誤法

書簡文の部

書簡文組立法……………一

立意……………一

體段……………三

用語……………五

諸般の注意……………九

書簡文作例

安否に關するもの 附吊慰に關するもの……………一四

兩親の安否を問ふ文 暑中見舞の文 寒氣見舞の文

同じき返事 病氣見舞の文 類焼見舞の文

死去を夫吊ふ文 戦死したる人の父母を慰む

祝賀に關するもの……………一九

年賀の文 卒業を祝する書 仕官を賀する 同じき返事

新居落成を賀する 同返事 病氣全快を賀する

議員に撰はれし人に遺る 婚姻を賀す 同じき返し

出産を賀す

誘引に關するもの……………二五

小學校參觀を約する 遊山を勸むる 納涼を約する

遠足を催す 同じき返詞 東京見物を謀る 同返事

温泉行を勧むる 演説會傍聴を約す 同し返し
墓参に人を誘ふ 同し返し 靖國神社の参詣に誘ふ文

贈答に關するもの……………三三

暑中氷塊を饒る 牡丹餅を饒る 同しき返事 野菜を饒る
同し返事 新板の書籍を贈る 同しき返事 越後縮布を贈る
同しき返事 爲替金を贈る

報知に關するもの……………三九

歸着を告ぐる 及第を父母に告ぐる 着京後父母に呈す
貸借に關するもの……………四〇

書籍を借る 書畫を借る 同しき返事 家を借る 同返事
椅子机を借る 同しき返事 金子を借りに遣る 同返事
請托に關するもの……………四五

作文の添削を頼む 雑誌交換を約する 同返事
畑地借用を頼む 同返事 服地見本を取りに遣す

欠席届を托する 傳言を頼むとて 見本を得んとて
仕立物を頼む 物品借用依頼の文 同返事 醫師を頼む
留守を依頼する 名代を頼む 約束の書畫を贈り和歌の批評
を頼む 病中友人の來話を乞ふ 同し返事
轉居に手傳を頼む 品物送致の依頼に答へ書籍の遞送を頼む

招聘に關するもの……………五四

茶會に客を招く 同しき返事 法會に人を招く 同返事
誕生に友を招く 同し返し 年祝に客を招く 同し返詞
照會に關するもの……………五八

漁況を問合す 不審の事柄を質問する 友人の志望を問ふ
同返事 東京遊學を友人に謀る 同し返し
汽船の出帆を問ふ 作物の適否を問ひ合す 同返事
學科の難易を問ふ

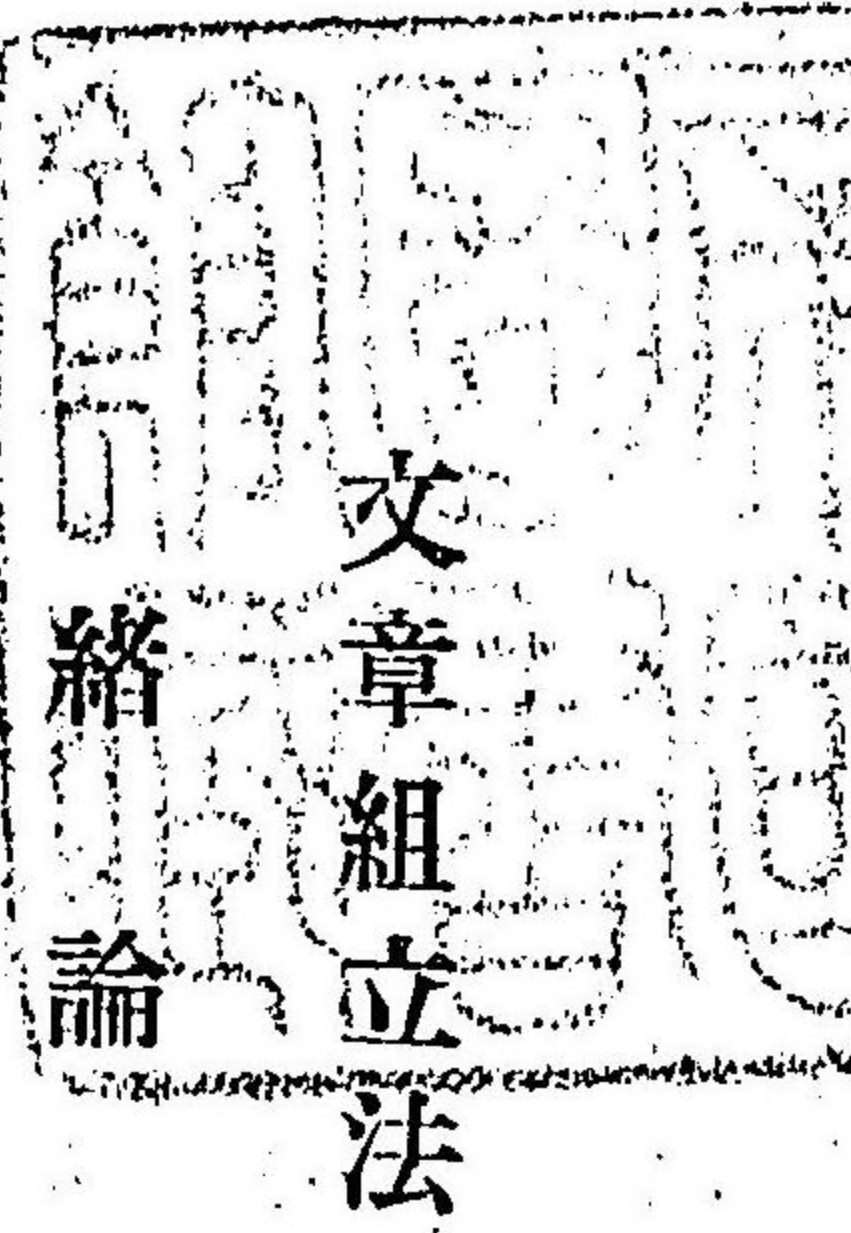
雜のもの……………六五

夜學を催す 同返事 擊劍會を起す 未だ逢はざる人に遣す
 久しく滞在せし家に遣す 卒業後教師に呈す
 紀元節に人に贈る 同返事 神嘗祭に人に贈る
 友人の怠惰を戒む 朋友に素志を告ぐ 馳走の禮を述べ提灯
 をかへす 産物の惠贈を謝し學事を報する文
 約束を斷り依頼せられし返事を報し借入金金の延期を頼む文

附録

書簡文の改良法 書簡文の正誤法 日用語義一斑

中等教育
 作文活法
 普通文部



文章組立法

緒論

高賀 説三郎 編

凡ソ字内ノ物人間ノ事大トナク小トナク皆其自然ノ先後ヨリ
 云ヘバ物先ツ存シ事已ニアリテ然ル後ニ之ヲ用ヒ之ヲ行フ法
 始メテ生ズレトモ今日人ノ之ヲ行ヒ之ヲ用フルニ方リテハ先
 ツ明ニ其法ヲ知ラザルトキハ一事ノ微一物ノ小ナリトモ決シ
 テ之ヲ能スベカラズ文章モ亦然リ其字ヲ詳ニシテ其語始メテ
 書スベク其法ヲ明ニシテ其文始メテ行ルヘシ古人ノ曰ハ格
 明ニシテ思精シ思精シキモノハ筆路條達シテ旁岐ニ迷ハス以

文章組立法 緒論

テ東スヘク以テ西スヘク縱横馳騁意ノ向フマ、ニシテ毫ノ窒礙ナカラント是法格ノ忽ニスベカラザル所以ナリ然レトモ從來此發達十分ナラザルモノアリ甚シキハ文格ト文法トヲ混同シ或ハ文章ノ巧妙ノ處ヲ説クニ文法ノ名稱ヲ附シ夫ノ彙ヲ立テ類ヲ分チ之カ組織ヲ試ムルカ若キハ寥トシテ晨星ノ如シ且ツ現今普通教育ノ初等ニ在リテハ秩序畧立チ着々歩ヲ進ムレトモ進ミテ其中等ニ上リ文章ノ法格ヲ示スヘキ時期ニ至レハ遽カニ放任ニ失シ學フモノ自ラ是トシテ教フルモノ其非ヲ斥ケス前後ノ相應セザル脈絡ノ相續カサル叙次ノ宜シカラサル菽麥ヲ混スル幹ヲ略シ枝ヲ詳ニスル殆ント讀ムニ堪ヘサルモノ十二八九ニ居リ蓋教フルモノ從來ノ注入教授ヲ掃蕩スル餘勢生徒ノ爲ス所ニ一任シテ開發教授ノ道ヲ得タリトナス謬見アルハ其原因ノ一ナラン文章ノ思想ト感情トニ於

二

ケルハ響ノ聲ニ應スルガ如ク影ノ形ニ從フガ如キモノナレバ奔放錯落直ニ胸臆ヲ行ルヘク區々タル法格ニ拘ハルヘカラズト云フ誤解アルハ其二ナラン讀書ノ授業ニ際シ文章構造ノ模範タル節段アルニ會ヒテモ忽諸ニ付シテ注意ヲ促サ、リシハ其ノ三ナラン然レバ今日作文法ヲ如何ニシテ學フヲ可トスルカト云フニ余ハ以爲ラク思想ニ關スルモノハ之ヲ其法則タル論理學ニ質シ感情ニ係ルモノハ之ヲ其法則タル美辭學ニ考ヘ日常事物ノ説明ニ適應シ公衆集會ノ議論ニ切近ナルモノニシテ短ク且粗ナルモノヲ擇ヒテ之カ法則ヲ知ルヲ可トス何トナレバ短カケレバ知リ易ク粗ナレバ倣ヒヤスクシテ其學力ノ度ニ適スベク日常ノ實用ニ適スルモノハ心ヲ惹クコト最モ強クシテ記憶ニ勞ヲ省クヘケレハナリ

文章論

文章トハ一個ノ思想ヲ表示スルモノニシテ數多クノ語ヨリ成ル語ハ一字ノモノアリ數字ノモノアリ蓋今日吾人ノ使用スル字ハ本物形ニ象レリ之ヲ文ト稱ス文ノ上ニ文ヲ加ヘテ變化ヲ成ス之ヲ字ト稱ス日月ノ如キハ文ニシテ明ノ如キハ字ナリサレド今ハ便ニ從ヒテ凡テ字トハ云フナリ字ハ即チ觀念ヲ表示スルモノニシテ字ニ字ヲ加ヘテ一語ヲ成スアレバ之ヲ熟語ト稱ス凡ソ外ニ事物アレバ内ニ觀念ナクバアルベカラズ既ニ觀念アレバ之ヲ表出シ之ヲ保存スル熟語ナクバアルベカラズ故ニ語ノ新ニ出テ、日ニ加ハルハ自然ノ勢ニシテ其意義ヲ轉シテ使用スルモ已ムコトヲ得サルコトナリサレバ略ク熟語ヲ組織スル方法ヲ知ラズバアルベカラズ熟語ノ組織ニ同類相合フモ

ノアリ異類相合フモノアリ双對スルモノアリ重疊スルモノアリ邦國法律奔走兒童成就改革生存思慮消耗ノ類ハ同類相合ヘルモノニテ生存以下ノ語ノ如キチ主一結合ト云ヒ他ヲ融化結合ト云フ主一トハ下ノ一字主タル謂ナリ從容周密連合没入辯護讀書作文亡國柔順卑屈生命ノ類ハ異類相合ヘルモノニテ柔順以下ハ亦主一ニ屬ス時トシテ上ノ主トナルモノチキニ非ズ忽然確乎淡然巍々乎ノ類是ナリ體用心身文武忠孝明滅往來善惡緩急多少ノ類ハ双對ナリ細ニ之ヲ分テハ體用ヨリ忠孝マテハ少シク相反對シ明滅ヨリ善惡マテハ大ニ相反對シ緩急多少ハ亦一ヲ主トスルコトアリ赫々寥寥茫茫漫々ノ類ハ之ヲ重疊ト稱ス此等ノ諸語カ集リテ文章ヲ成ス時ハ各占ムル所ノ位地ニ因リテ主語說明語客語補足語等ノ稱アリ例ヘハ法律ハ周密ナリノ一文アランニ法律ハ主語ニシテ周密ナリハ說明語ナリ

兒童ハ讀書作文ヲ勉強スノ文アラシニ兒童ハ主語讀書作文ハ客語勉強スハ説明語ナリ若シ兒童ハ思慮ヲ讀書作文ニ消耗スト云ハ、讀書作文ハ補足語ナラシサレハチノ助詞ノソハレルモノハ容語ニシテ二ノ助詞ノソハレルモノハ補足語ト知ルベシ補足語ハ一ニ修飾語ト稱ス而シテ此ニ單文重文複文ノ別アリ單純ニ唯一個ノ思想ヲ表ハシタル文章ヲ單文ト云フ禍ハ口ヨリ起ル能攻ムルモノハ亦能ク防クノ諸語ノ如キ是ナリ二個以上ノ思想ヲ一文ニ表ハシタルモノヲ複文ト云フ犬モ歩ケハ棒ニ中ル青ハ藍ヨリ出テ、藍ヨリ青シノ諸語ノ如キ是ナリ單文トスヘキ文ヲ二個以上重ネタルモノヲ重文ト云フ蠶ハ絲ヲ吐キ蜂ハ蜜ヲ釀ス雨降りテ地固マル大風起リテ雲飛揚スノ諸語ノ如キ是ナリ。

文体論

世上文体ヲ説クニ西洋文典ニ倣ヒテ叙述命令感動疑問ノ四ニ分ツ今生徒ニ課スルニ其實用少クシテ反リテ記事論説等ノ別ヲ授クル必要ナルヲ見ル因リテ今之ヲ説ク

文章ニ體製アルハ衣服ニ體製アルカコトシタトヒ寒暑ヲ防クトモ體製備ハラサル衣服ハ交際ニ害アルベクタトヒ思想ヲ表ハストモ體製立ダサル文章ハ實用ヲ妨クルコト多シ注意スベキコトナリ

一記トハ事實ヲ記スル文ヲ云フ單ニ事ヲ叙スルモアリ半議論ヲ交フルモアリ某地ニ遊フ記ナト、アルモノヲ紀行ト云ヒ某ノ事ヲ紀スト云フモノヲ紀事ト云フ專ラ人物ノ事ヲ記スルモノナリ單ニ一事ヲ記スルモノト略其一生ヲ紀スルモノトアリ凡テ事ヲ記スルニハ自然ニ事繁ク語煩シキニ至リ易ケレバ末ヲ省キ要ヲ撮ランコトヲ力ムヘシ

二論トハ事實若クハ思想ノ然否ヲ辨シ誤謬ヲ明ニスルモノナ
云フ秩然タル條理アリ且反復シテ事情ヲ盡スヲ貴フ
三説トハ思想ヲ陳フルモノヲ云フ其縱橫抑揚アルモノニ至リ
テハ論ト大ニ異ナルコトナシ意義明白ニシテ注解ヲ煩サ、
ルヲ貴フ

今記事ノ名稱ヲ説ニ冠シ之カ別ヲ亂ル教科書モアリテ人ナ
誤ルコト多ケレハ其別ヲ左ニ列舉セン

1 記ハ個體ノ事物ヲ對象トス
説ハ總體ノ事物ヲ對象トス

2 記ハ時間場所ヲ具フ
説ハ時間場所ナシ

故ニ筆、机、柿、孝、等ノ諸題ハ説ニシテ記ニ非ス記ニハ必此ノ筆、
誰ノ机、彼ノ柿、古ノ孝子、等ナラズハアルベカラズサレバ之ヲ

作ラシニハ

3 記ニハ議論ノ語ヲ少クシ

説ニハ事物ノ形状ヲ少クス

4 記ニハ主トシテ事物ノ形状ヲ述フルニ由リ其大小輕重ヲ分
ナテ取捨スルニ注意スベシ

説ニハ自己ノ思想ヲ述ブルニ由リ其正邪是非ニ留意シテ誤
謬ナカラシムコトヲ勉ムベシ

四祝文 事ヲ稱ムルモノニシテ或ハ單ニ事ノ善美ヲ形容シ或
ハ人ヲ諷諭ス辭ハ典雅ニシテ盛ナルヲ貴フ但此ニ所謂祝文

ハ西俗ニ出テシモノニテ古來ノ所謂祝文トハ其用ヲ異ニス
古ノ賀序之ニ當レリ

五祭文 祭饗ノ際讀ミテ袖ニ告クルモノナリ其言行ヲ贊シテ
哀傷ノ意ヲ寓スルモノニシテ辭ノ華麗ニ過キテ情ニ乏シキ

ハ其避クベキ所ナリトス

文章ノ組織法ノ分類

論理學ハ思想表出ノ法則ヲ研究スルモノナリ凡ソ人トシテ思想アラザルハナク思想トシテ表出ヲ求メザルハナク之ヲ表出セシニハ亦其法則ナクバアルベカラズ今文章ハ其表出ヲ文字ニ表ハスニ過キザレバ固ヨリ此ト同一ナル法則ニ從ハスハアルベカラズ孔子曰ハク辭ハ達セシノミト又從來ノ文家ハ達意ヲ貴ヒ前後ノ事實必同一ノ思想ヲ以テ貫穿センコトヲ力メタルハ即チ論理ノ忽ニスベカラザルヲ知レルナリ修辭學ノ目的トスル所ハ人ナシテ善ク了解セシメ善ク悦服セシメ善ク感動セシムルニ在レバ人ノ感情ヲ惹キ起サンニハ此學ノ法則ニ依ルベキハ固ヨリ論ヲ待タズ孔子又曰ハク言ノ文ナキハ行ハル

トモ遠カラジト又從來詞藻ト稱セルモノハ此學ノ法則中ノ一班ニテ處々ニ裝飾ヲ力メ此ニ乏シキ文ヲ人ノ血肉枯瘦シテ色榮エサルニ比シタリキコレ修辭ノ忽ニスベカラザルヲ知レルナリ試ニ從來文家ノ説ク所ニ就キテ之ヲ分類センニ推原、正反、總提、分應、兩柱、分應、兩柱、遞文、總提、總收、頭脚、引證、條陳ノ如キハ論理ノ法則ニ攝セララルベキモノニシテ造語ノ蒼勁ナル四字連用ノ調ヲ整フル兩短句ヲ承クルニ一長句ヲ以テスル或ハ波瀾ト云ヒ或ハ縱擒ト云ヒ頓挫ト云ヒ抑揚ト云ヒ短刀直入ト云ヒ斜挿ノ横雲山ヲ隔ツ突起ノ大空ヲ憑陵スル重層ノ群山ノ起伏スル游衍ノ一緩一急不了語ノ烟波千里ヲ縹渺ノ間ニ望ムカ如キハ修辭ノ法則ニ管セララルベキモノナリ然レトモ緒論ニ述フルカ如ク之ヲ直ニ中等教育ニ用フベカラス今其知リ易ク用ヒ易ク日用離ルベカラサルモノヲ取り之ヲ數年ノ實驗ニ徵シテ論

定スルコト左ノ如シ

頭脚 正反 立柱分應 累進 條陳 釋義 單行

以上論理ニ關スルモノ

比喩 層叙 疊句 例字 複語 正語 反語 對語 聯語

累語 省語 問答語 倒語 隱語

以上修辭ニ關スルモノ

文法各論

一、頭脚法ハ動物ノ身體ニ象リタル名ナリ一個ノ事物カニ以
上ニ分タル、時ニ用フ之ヲ用フルニハ先ツ其事物ノ性質ヲ
考ヘ範圍ヲ定メ幾個ノ分子カ相集リテ其全體ヲ組成セルカ
ト云フコトヲ知ルヲ必要トス始一ツニシテ末二ツニ分ル、
モノナ一頭兩脚ト云フ血液ノ種類火山ノ種類鑿ノ凹凸政治

ニ行立法立法ノニアル財本ニ固定流動ノ別アルヲ説クカ如キ
ハ皆此ノ法ニ依ルベシ始一ニシテ末三ツニ分ル、モノナ一
頭三脚ト云フ鐵寒暖計三種神器生財三要槓杆ノ三種道府縣
ノ三治ノ如キハ皆此法ニ依ルベシ末ノ四以上ナルナ一頭多
脚ト云フ炭ニ石泥褐木無焰ノ類アリ業ニ農漁獵鑛工商アリ
爵ニ五等アリ鎮守府ニ五アリ師團ニ十二アリ桑楮漆楮ノ四
木牛羊等ノ六畜虫燐日電等ノ諸光ヲ説ク如キハ皆此法ニ依
ルベシ凡ソ此法ハ末ニ更ニ結束ヲナスコトアリ文意散漫タ
ラズ章法モ甚タ齊整ナリ
二、正反法 正ハオモテ反ハウラナリ一タヒハ題意ノ正面ヲ
説キ一タヒハ其反面ヲ説クモノナ云フスベテ事物ハ對セザ
ルモノナシ善アレバ惡アリ上アレバ下アリ表裏黑白高低精
粗皆然ラサルハナシ此等ハ心理學ニ所謂反對聯想ノ定律ニ

由リテ一ヲ舉クレハ他ノ一ノ出テ來ルコト必然ナリ又古人ノ事實ヲ例證トシテ引キ來リ正邪相形リ智愚相比スルトキハ剴切ナル論說ヲ作ルコトヲ得ベシ強勉剛毅公平清廉等ノ諸題ハ最モ此ノ法ヲ用フルニ適セリ

三、立柱分應 家屋ノ建築ニ象リタル稱ナリ始ニ二項若クハ數項ヲ說キ出シ其間ニ決シテ少シノ輕重ヲナスコトナク後ニ至リ順次ニ前ニ分テ應スルモノヲ云フ條理井然トシテ觀ルベク章法整然トシテ誦スルニ足ル或ハ之ヲ交對法トモ稱ス勤儉文武知行忠孝和魂洋才ノ如キ諸題ハ皆此ノ法ヲ用フベシ

四、累進法 同一ノ事項ヲ累テ順次ニ說キ進ムルモノヲ云フ其ノ用ノベキ處ハ因果ノ關係アリ追隨ノ次第アル事物ニ限ル原因ヨリ結果ニ順下スルモノアリ意誠ニシテ後心治リ心

治リテ後身修リ身修リテ後家齊フノ如キ是レナリ結果ヨリ源因ニ逆上スルモノアリ人生ノ禍福ハ知徳ノ深淺ニ由リ知徳ノ深淺ハ教育ノ良否ニ關シ教育ノ良否ハ師道ノ興廢ニ係ルノ如キ是レナリ

五、條陳法 一々個條ヲ逐ヒテ細ニ論說スルモノヲ云フ前ニ總ヘテ後ニ個條ヲ列ヌルモアリ後ニ總ヘテ前ニ個條ヲ分ツモアリ前後ニ總說ヲ置クモアリ總說ハ必ス數多ノ個條ヲ包羅スルヲ要シ個條ハ必ス總說ノ外ニ出テサランコトヲ要ス論說ヲ精密ニシ誤謬ヲ見易カラシメ并セテ文章ノ長短ヲ隨意ニシ事項ノ取捨ヲ做シ易カラシムルニ便利ナル方法ナリ例文ハ長ケレバ畧シヌ文例ヲ參照シテ之ヲ知ラシムコトヲ要ス

六、釋義法 事物ノ性質若クハ言語ノ義理ヲ解釋スルコトヲ

云フ凡ソ概念ハ其何タルヲ論ゼス必數種ノ元素ヨリ成レル
 モノナルヲ以テ之ヲ分解シテ數個トナスコトヲ得ベシ其嚴
 ニシテ密ナルヲ學術的定義ト云ヒ寬ニシテ粗ナルヲ通俗的
 定義ト云フ共ニ類ト種トヨリ成リ類ニハ普ク他ニ通ズベキ
 性質義理種ニハ特ニ有スル性質義理ヲ見ハスヲ必要トス例
 ヘバ義勇トハ正義ニ由リテ奮ヒ起ツ勇氣ヲ云フ誠ヲ以テ君
 ニ事ヘ奉ルヲ忠ト謂フトイフニ文アラシニ正義ト誠トハ種
 ニシテ勇氣ト君ニ事フトハ類ナリ故ニ上ニトハノ語アルカ
 下ニト云フノ語アルカノ一アル文ハ必ズユノ法ニ由ルベシ
 コノ二語ハ必其事物ノ性質ヲ指示スルモノナレバナリ時ト
 シテハトトハトナ同一ニ誤用スルコトアリ注意スベキコト
 ニユソ

七、單行法 單行ハ對行ニ反スル名ナリ直行雁行倒置ト別ツ

コトモアリ又對行ニ雙對疊對交對ト分ツコトモアリ此ノ如
 クスルキハ前ノ累進法ハ雁行ニ當リ立柱分應ハ交對ニ當ル
 今此ニハ前ニ列舉セルカ如キ一定ノ組織ナキモノヲ統ベテ
 之ヲ云フ前ニ議論ヲ叙シ後ニ事實ヲ叙スル文ハ之ニ入ル例
 ヘハ晏平仲善ク人ト交レリ(議論)久シケレト之ヲ敬ヒヌ(叙事)
 ノ如キ是ナリ前ニ事實ヲ叙シ後ニ議論ヲ叙スル文モ之ニ入
 ル舜問ナ好ミ邇言ヲ察スルコトナ好ミキ(叙事)大智ト謂フベ
 シ(議論)ノ如キ是ナリ又議論ヲ前後ニ置クモノアリ前文ト後文
 ト互ニ相關係セシメ意味ナシテ一讀燎然タラシムルヲ貴ブ
 八、比喩 類似ノ事物ヲ引キ較フルヲ云フ是レ正面ノ事物ヲ
 シテ愈明カナラシメントテナリ論理上ノ比較アリ美辭上ノ
 比較アリ論理上ノ比較ハ眞理ヲ確定スルヲ以テ目的トスル
 ガ故ニ必ズ比較ヲ同類ニ取ル油ト水ト酒ト相比シ銅ト鐵ト

相比スルガ如シ美辭上ノ比較ハ感情ヲ攪動スルヲ以テ目的トスルヲ以テ其趣ヲ異ニスルモノヲ取ルヲ最妙ナリトス光陰ヲ流ル、水ニ比シ學問ヲ山ニ登ルニ比スルガ如シ文題ノ單純ニシテ内容ニ説明ヲ要スルコト甚タ少キモノハ此法ヲ以テ説キ去リ其枯淡ノ弊ヲ去ルヘシ

九層叙法 語句ヲ層々列叙スルヲ云フ其語句ハ必性質ノ同シキ事柄ニ限り決シテ異ナルモノヲ雜フヘカラズ若シ異ナルモノニ至ルトキハ語法ヲ變スルヲ可トス例ヘハ月明ニ星稀ニ鳥鵲南ニ飛フハ夜色ノ清朗ナルヲ叙ヘタルモノニテ即テ性質ノ同シキモノナリ周道衰ヘ孔子歿シ秦ニ火アリ漢ニ黃老アリ晋宋魏隋齊梁ノ間ニ佛アリハ儒教ノ他教ノダメニ衰ヘタル狀ヲ述ヘタルモノニテ同性質ノ語ナリ此ノ法其事柄ハ輕ヲ先ニシ漸ヲ追ヒテ重ニ至ラシメ語句ハ短ヲ先トシ

長ヲ後トスルヲ定則トス

十、疊句法 事柄ハ異ナレトモ語句ノ同一ナル組立ヲナセルモノヲ云フ例ヘバ時ニシテ然ル後ニ言ヘハ人其言フコトヲ厭ハズ樂シミテ然ル後ニ笑ヘハ人其笑フコトヲ厭ハズ義アリテ然ル後ニ取レバ人其取ルコトヲ厭ハスト云フカ如シ文勢ヲ壯快ナラシメ人耳ニ興味ヲ與フルニ甚タ便ナリ

十一、例字法 一文中ニ數回同様ノ字句ヲ用ヒテ互ニ相呼應セシムルモノヲ云フ文章ノ節段ヲ定ムルニ最モ好キ法ナリ紀行若クハ日記等ニ何日何日ト書キ列ヌルモ是ナリ節段ノ首ニ在ルハ河渠書ノ一段ニ其後ニ河東ノ守云々二段ニ其後ニ人アリ上書ス云々三段ニ其後ニ莊熊羆言ス云々トアル其後ノ二字ハ即例字ナリ叔孫通ノ傳ノ初ニ漢ノ五年云々次ニ漢ノ七年云々次ニ漢ノ九年又次ニ漢ノ十二年云々トアルモ

是ナリ節段ノ尾ニ在ルハ論語首章ノ結語ニ每節亦何々ナラズヤノ語ヲ三タヒ疊メルカ如キ是ナリ

十二、複語法 文章ノ一節若クハ一篇ノ始ト終トニ同一ナル語ヲ用フルヲ云フ主意太明ニ文氣散漫ナラス最學ヒ易キ法ナリ例ヘハ左ノ如シ〔一〕賢ナルカナ回ハ〔起〕一簞ノ食一瓢ノ飲陋巷ニ居リ人其憂ニ堪フサレトモ回ハ其樂ヲ改メズ賢ナルカナ回ハ〔結〕禹ハ我間然スルコトナシ〔起〕飲食ヲ非クシテ孝ヲ鬼神ニ致シ衣服ヲ惡シクシテ美ヲ黻冕ニ致シ宮室ヲ卑クシテ力ヲ溝洫ニ竭ス禹ハ我間然スルコトナシ〔結〕

十三、正語 語ト意ト相一致シ平ニ且ツ順ニ説キ出スモノニテ語中最多キヲ占ム克ク忠、克ク孝、世々厥ノ美ヲ濟スノ類是ナリ

十四、反語 意味ノ其語ト反對スルモノヲ云フ語勢ヲ強ムル

時ニ用フ學何ソ修メザルベキ明日アリトハ恃ムベキ身カ思ヒカゲキヤ、止マルベキカハ、忘レメヤ、我ヤ忘ル、戒メデヤハアルベキ、香ヤハカクル、亦君子ナラズヤ、敢テ敬セザランヤ、豈獨リ親ニ孝ナルノミナランヤ、ノ類是ナリ

十五、對語 同シ組立ノ語ノ事柄ノ異ナリタルモノヲ二ツ並ヘ用フルモノヲ云フ文章ノ調子ヲ整フルニ必要ナリ例ヘハ猛士ハ烟ノ如クニ起リ兇徒ハ瓦ノ如クニ解ク、大野原ニ生フルモノハ甘菜辛菜青海原ニ栖ムモノハ鱸ノ廣モノ鱸ノ狹モノ、父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニノ如シ

十六、聯語、上語ト下語ト相聯レルコト鎖ノ連ナルカ如キノヲ云フ事ノ順序ヲ逐ヒテ叙スル時ニ用フ累進法ニ比シテハ形コソ小ナレ性質ハ同シ人喜ヘハ斯ニ陶ミ陶メハ斯ニ詠フノ如シ

十七、累語、同シキ組立ノ語ヲ同一ノ事物ノ上ニ累ヌルモノニシテ事物ヲ切ニ云ヒ表ハシ又形容ヲ大ニスルニハ缺クベカラズ、明キ清キ直キ真心、貴キ清キ高キ廣キ厚キ大命、天地ノ道ハ博シ厚シ高シ明シ悠シ久シノ類ナリ之ヲ古今ニ通シテ謬ラズ之ヲ中外ニ施シテ悖ラズノ語モ之ノ字同一物ヲ指セハ亦累語ナリ

十八、省語、同シキ語句ノ幾個モ重ナリ煩雜ニシテ厭フベキ時之ヲ用ヒテ文章ヲ簡潔ナラシムルモノナリ例ヘバ越後ハ海ニ面シ山ニ背ク越中モ然リ、十日晴ル夜少シク雨フル十一日前日ノ如シ、父子ニ勤儉モテ家ヲ保テヨト命シケリ子モ亦以テ其子ニ命シケリノ類ニテ亦然リ、前日ノ如シ、亦以テ等ハ即チ省語ヲ用ヒタルナリ又語句ノ重ナラザル時ニテモ語ヲ省クコトアリ何々トテ、カク爲シキトゾ、戒ムベキコトニユヘ、

ノ類皆文章ヲ簡潔ニスル効アリ

十九、問答語、自ラ問ヒ自答フルモノニテ意味ヲ明瞭ナラシムルニ甚適セリ何か故ニ學ニ入ル曰ハク智ヲ研キ德ヲ修ムル所以ナリ、大和魂夫ハ何ゾ云々ノ類是ナリ

二十、隱語、心ヲ裏面ニ包ミ置キテ語上ニ出サ、ルモノニシテ善ク之ヲ用フル時ハ文氣優雅ニシテ意尙深遠ナル觀アリ、鶏ヲ割クニ何ソ牛ノ刀ヲ用ヒン、桃李云ハサレドモ花下自ラ蹊ヲ成ス、柳ノ枝ニ雪折ハナシ、未タ雪ノ重ミモ知ラヌ今年竹我物ト思ヘハ輕シ笠ノ雪、

二十一、倒語、前ナル語ヲ後ニシ後ナル語ヲ前ニスルモノニテ語勢ヲ勁捷ナラシムルニ用フ君子ナルカナ此ノ如キ人ハ不仁ナルカナ義朝ノ如シ

注意スベキ諸項

以上ノ如キ文法ヲ解セリトテ平生心ヲ作文ノ益アル事項ニ
用ヒサルトキハ到底之ヲ能スベカラズ其事項トハ何ソ談話
講義演說速記讀書抄書批評譯文等是ナリ

- 一、談話ニハ用語ヲ撰擇シ正否ヲ審ニシ雅俗ヲ辨スベシ
 - 二、講義ニハ語脈ノ順序言語ノ伸縮ヲ知ルベシ
 - 三、演說ニハ布置ヲ詳ニシ結構ヲ密ニスル益アリ
 - 四、速記ニハ言語ト文章トノ單複繁簡ヲ知ル便アリ
 - 五、讀書ニハ他人ノ風調ヲ模シ其聲調ニ似ル利アリ
 - 六、抄書ニハ自己ノ學力ニ相應セル材料ヲ豊富ナラシムベシ
 - 七、批評ニハ文思ヲ緻密ニシ誤謬ヲ發見スルニ敏ナラシムベシ
 - 八、譯文ニハ和漢古今雅俗ノ相異ヲ明ナラシムベシ
- 此皆一トシテ文ヲ學フモノ、注意スベキコトニ非サルハナ

シ

九、而シテ其最佳ナルハ接續詞助動詞助詞ニ注意スルニ在リ何

トナレハ情ノ強弱モ此ニテ分レ事ノ關係モ此ニテ分レ時ノ
先後勢ノ緩急モ此ニテ分レ文章ノ轉接起結モ此ニテ用ヲ辨
スルコト多ケレバナリ起ト結トノ二ハ和漢譯讀ノモノヲ云
フ文何レモ同一ナレトモ轉ト接トハ漢文ニハ下語ノ首國文
ニハ上語ノ尾ニアリ左ニ其重ナルモノヲ舉ケン

1 文ヲ起スモノ

且ツ 口語ニ其上ト譯ス和文ナル且トハ異ナリ前文已ニ畢

リテ一寸添へ起ストキニ用フ故ニ且ノ字ノ後ナル事
項ハ前ナル事項ニ比シテ輕キモノナリ

夫レ 口語ニアノト譯ス文章中ノ客タル事項ノ上ニ用フ勉
強ノ說ノ始ニ夫レ人ハト書キ出スハ正シケントモ夫

レ勉強ハト云フハ誤ナリ

蓋 口語ニ大カダト譯ス下ナル文ニ述フル所ヲ重シテ
輕、シクセザル意アリ

惟フニ口語ニ考フルニト譯ス一ノ考ヲ持シテ發言スルトキ
特ニ之ヲ用フ

且夫

今夫

嘗テ思フニ

2 文ヲ接スルモノ

此 口語ニユノコレト譯ス物ヲ指スニ用フ

是 コノヤウト譯ス物ノ性質ヲ指スニ用フ故ニ此ニ比シ

テ重シ此日は日此人是人此歳是歳ノ類此ハ惟彼ノ物
ニ分ツニ止マレトモ是ハ是ノヤウナル吉キ日トカ是

ノヤウナルツヨキ人トカ是ノヤウナル事ノアリタル
歳トナルナリ

則下語ヲ以テ上語ヲ處置スル場合ニ用フ文章ニ由リテ未來

ニハソレナラバ過去ニハソレナレバ時間ニ關セザルトキ

ハユトハトキハナトト譯ス全ク國語ノハニ當ル字ナレバ

上ニハノ助詞アルトキハ用ヒザルヲ可トス

蓋口語ニソハト譯ス上語ノ意思ヲ推シ原ヌルナリ

故ニ 口語ニソノワケデト譯ス

是ヲ以テ 口語故ニ同シサレド故ニハ其上語ヲ重クシ是ヲ

以テ其下語ヲ重クスルナリ例ヘバ雨フル故ニ傘ヲ用フト

アレバ雨ノ字ニ力ヲ入レタル語ナレトモ雨フル是ヲ以テ

傘ヲ用フルトアレバ傘ヲ用フルワケハ雨フルタメナリト

云フ意トナル所以モ是ヲ以テト同ジ即チ語カ原因ニ係ル

ト結果ニ着クトノ異アルナリ

是ニ由リテ

此ニ由リテ

何トナレバ 前文ノ理由ヲ説キ明スニ用フ精シクハ何ト云

フ故ナレバト云フ意ナリ

3 文ヲ轉スルモノ

然ルニ然レトモ 共ニ上文述ベタル事項ノ全體反對スルモノヲ述フルトキニ用フ

但 タ、ニシト云フツヨク力ヲ添フル詞ヲ加ヘタルナリ上

文ト一部反對スルモノヲ説クニ用フ

若 口語ニ萬一ト云フ想像セル事項ヲ説クニ用フ

或 モアランノ意ナリ不定ノ事項ヲ説クニ用フ

抑 口語ニシカント譯ス上文ヲ抑止シテ更ニ全反對ニモ

非ズ一部反對ニモ非サル殆無關係ノ事項ヲ説キ出ス

トキニ用フ世上之ヲ文章ノ一篇ノ始ニ用フルハ非ナ

リ一節一段ノ始ニ用フベキモノナリ

然リ而シテ 然リト雖モ 此等ハ漢文直譯ナレハ用ヒスト

アリナン

既ニシテ 已ニシテ 口譯ニハソウアリテトス然レトモ既

ハ大過去ニ用ヒ已ハ小過去ニ用フベキモノタリ

4 文ヲ束ヌルモノ

之ヲ總フルニ 上文ヲ總フルトキニ用フ

之ヲ要スルニ 上文切要ノ處ヲ再ヒ説キ出スニ用フ

大約 約畧大概ノ詞

大抵 同シ

5 文ヲ歇ムルモノ

文章組立法 各論

一 決定スルモノ

ケリ

物ノ到來セルトキニ用フ

セリ

事ヲ作シタルトキニ用フ

タリ

落着キ明ニスルナリ

ナリ

目前ヲ明ニスルナリ

ヌ

自然ニカクナリタルヲ明ス

ツ

人爲ニカクナリタルヲ明ス

キ

既往ニ關ス

ベシ

將來ニ關ス

二 想像スルモノ

メリ

目前ノモノニオイテ

ケン

既往ノモノニオイテ

ラン

將來ノモノニオイテ

三 推量スルモノ

ラシ

目前ノモノニオイテ

ケラシ

既往ノモノニオイテ

四 將然ニオケルモノ

ン

人爲

ナン

天性

テン

試ミルナリ

マヤ

希フナリ

シガ

志願スルナリ

モガナ

志願スルナリ

五 不然ヲ示スモノ

ズ

目前ニオケルモノ

シ

未來ニオケルモノ

全打消ナリ

半打消ナリ

六反轉ヲ示スモノ

ヤ ヨノ前ニ多ク豈何焉寧ナトノ語アリ

カハ 目前ナリ

ヤハ 同シ

メヤ 將來ニ於ケルモノ

七命令ヲ見スモノ

ネ 指示スル意ナリ

ヨ 同シ

ヤ 同シ

ナシ 恩頼スルナリ將然ハ續用言ヲ受ク此ハ將然

ナ 禁止スルナリ

ナソ 同シ

八感歎ニオケルモノ

カナ、カモ 嗟咏スルナリ

カ カヤ 疑問スルナリ

ハモ ハヤ 悲哀スルナリ

附言 ノミト云フ詞ニテ語ヲ歇ムルコトアルハ漢文讀ヨリ

來リタル法ナリノミハ元來事物ヲ限局スル接續助詞ニシテ

下ニナランナリ等ノ詞アルベキナリ之ナキハ省キタルナリ

單行文法

銀

長短句ノ
配合ヲ看
但馬ノ下
器ニナリ
タ

銀ハ白色ニシテ光澤アリ其ノ性ハ金ヨリモ硬シ線トナシ箔
ヲ製シ貨幣ヲ作ル其ノ産出多キヲ以テ其ノ功却リテ金ヨリモ
廣シ此ノ金ノ多ク産スル所ハ我カ邦ニテハ但馬外國ニテハめ
さしこナリ

文章作例 單行文法

金

對語

金ハ色黄ニシテ光輝ヲ具フ其ノ質ハ軟ニシテ粘力アリ抽キテ線トナセハ糸ヨリモ細ク展ベテ箔トナセハ紙ヨリモ薄シ金屬ノ内最貴キモノナリ此ヲ多ク出ス地ハ我が邦ノ佐渡英領ノおすたらりやナリ

牛

累用^{ヘシ}

牛ハ體大ニ力强ク畜ノ中ニテ最重キ物ヲ負ハシムベキモノナリ肉ハ味美ニシテ其ノ皮ハ韋トスベク其ノ角ト蹄トハ種々ノ器具ヲ作ルベク其ノ糞ハ肥料トスベク其ノ膀胱ハ氷ヲ盛リテ熱ヲ除クニ用フベシ

豚

豚ハ其ノ體肥エ太リテ家畜ノ中ニテ最多ク脂肪ヲ有セリ其ノ肉味美ニシテ其ノ皮ハ韋トスベク其ノ毛ハ刷毛筆ナドヲ作ルベク其ノ糞ハ肥料ニ用ヒテ益アリ

桐

桐ハ生長ノ甚ダ速ナルモノニシテ其ノ質輕ク且美ニシテ又濕氣ヲ防グニ宜シ此ノ木ヲ用ヒテ書棚机箆筥及木履ヲ製スルハ人ノ知ル所ナリ

漆

漆ハ寒キ土地ニ適スルモノニシテ其ノ幹ノ傷ケヨリ出デタル汁ヲ取り之ヲ製シテ器物ヲ塗ルベシ謂ハユル漆是ナリ漆器ノ本邦ノ名高キ産物タルコトハ外國人ノ知ル所ナリ

櫨

櫨ハ寒地ニ宜シキモノニテ其ノ葉ハ鳥ノ羽ノ狀ヲ成シ秋ノ末ニ至レバ其ノ色紅トナリテ甚ダ美ナリ其ノ實ハ搾リ汁ヲ取り以テ蠟ヲ製スベシ

文章作例 單行文法

或ノ字ノ用法

減法トハ一數ノ一部ヲ去リ其ノ殘數ノ幾何ナルヲ知ル方法ヲ云ヒ或ハ兩數ノ差幾何ナルヲ知ル方法ヲ云フ九ヨリ三ヲ去ルトキハ殘數六トナルヲ知リ九ト三トノ差ハ六ナルヲ知ルガ如キハ減法ナリ此ノ法ニハ後數ヲ前數ヨリ減スベキヲ示サンガタメニマイナスヲ其ノ間ニ記ス

乘法

乘法トハ二個以上ノ等數ノ和ヲ知ルベキ簡法ヲ云フ加法ニテハ三ト云フ數八ツアル和ヲ知ランニハ先八ト八トヲ加ヘテ十六トナシ又之ニ八ヲ加ヘズバアルベカラズサレド乘法ニハ乘算九々ヲ用ヒテ直ニ三八ノ二十四ナルヲ知ルナリ此ノ法ニハ後數ヲ前數ニ乘ズベキヲ示サンガタメニタイムヲ其ノ間ニ記ス

除法

除法トハ甲數ノ中ニ乙數ノ幾倍ヲ含ムカヲ知ル法ナリ例ヘバ百二十五ヲ五ニテ除スルトキハ二十五トナル故ニ百二十五ノ中ニハ五ノ二十五アルヲ知ルガ如シサレバ或ハ既ニ一數ノ一部ヲ知リタルトキ其ノ一部ト同ジキモノ其ノ中ニ幾何アルカヲ知ルガ如キ或ハ既ニ一數ヲ等分スルヲ知リタルトキ其ノ等分ノ一ハ幾何ナルカヲ知ルガ如キハ皆此ノ法ノ用ナリ此ノ法ニハ後數ヲ以テ前數ヲ除スベキヲ示サンガタメニデヴァイデツドバイヲ其ノ間ニ記ス

犬

故ニ
犬ハ其ノ性活潑ニシテ人ニ馴レ易ク盜ヲ防グニ妙ナリ故ニ多ク人家ニ畜ハル其ノ食ハ肉類ヲ好ム其ノ皮ハ大鼓ニ張ル又三線ノ腔ニ張ルベシ

猫

文章作例 單行文法

是ヲ以テ

猫ハ其ノ性柔軟ニシテ容易ニ人ニ馴レ鼠ヲ捕フルニ巧ナリ是
ヲ以テ人家ニ養バル食ハ魚類ヲ嗜ム其ノ皮ハ三線ノ腔ニ張ル
ベク其ノ毛ハ蒔繪筆トナスベシ

租 稅

節段ナシ

租稅ハ國ノ害ヲ防ギ國ノ利ヲ興スヤウニ政治ヲナス費用トシ
テ納ムルモノナレバ租稅ヲササムルハ一日モ怠リ滯ラスベカ
ラザルモノナリ

兵 隊

一ノ節段アリ

兵隊ハ國ニ謀反ヲスルモノ、ナキヤウ外國ヨリ攻メ來ルモノ
ナキヤウ國ノ守トシテ置カル、モノナリサレバ兵隊トナルハ
其ノ身ニトリテ最ホマレアルモノナリ

神嘗祭

敬語ノ用

毎年十月十七日新穀ヲ伊勢神宮ニ供ヘ奉ル祭典アリ之ヲ神嘗

祭ト云フ我等食物ノ源ハ天照大神嘉穀ノ種ヲ得サセタマヒテ
之ヲ天孫ニ授ケタマヒシヨリ今ニ天下ニ播殖シテ臣民之ヲ食
トシ生ヲ保ツコトヲ得ルモノナレバ毎年ノ新穀ヲバマツ天照
大神ニ奉リテソノ御恩ヲ報ジタマツルナリ

新嘗祭

十一月二十三日は新嘗祭アリ本年ノ新穀皆熟シタルヲ以テ
天皇親シク之ヲ 天照大御神ニス、メタマヒ又御親モナメサ
セタマフ御祭ニテ古ヨリオモシゼラル、大典ナリ

儒教傳來ノ始

紀元九百四十四年百濟ノ人阿直岐トイフモノ經史ヲ齎ラシテ
來朝シケレバ時ノ天皇更ニソノ國ノ學士王仁ヲ聘シタマヒシ
ニ論語千字文等ノ書ヲ携ヘ來リテ諸ノ皇子ニ教ヘタリキ此ヲ
儒教ノ傳リシ始トスコノ教ハ支那ノ周ノ末ニ孔丘トイフモノ

文章作例 單行文法

天皇ノ下ニ
陛下ノ下ニ
語ヲ用フ
ルト用ヒ
ザルトニ
注意スベ
シ下五文
此ニ倣ヘ

ケレバ
タリキ

タルモノナリキ

古ノ聖人ノ言ニ本ヅキ衆人ノ情ヲ種トシテ立テタルモノナリ

銀行

イヘリシ用ヒシ

明治五年三井某始メテ貨幣ニ關スル事ヲ取り扱フ店ヲ開キ紙幣ヲ發行シ預リ金ヲ行ヒ手形取引ヲ作セリ是ヲ銀行ノ始トス行トハ支那語ニテ店トイフコトナリ支那ハ銀貨ノミ行ハル、國ナレバ金行トイハズシテ銀行トイヘリシ我邦ニテ直ニ其語ヲ用ヒシナリ

孟蘭盆會

トノ字ノ用法蓋ノ一句謙辭法

孟蘭盆會ハ聖武天皇ノ天平五年ノ七月十四日ニ初メテ行ハレタリキ孟蘭トハ梵語ニテ倒ニ懸ルト云フ義ニシ苦ニタトフ盆ハ物ヲ盛ル器ニテ種々ノ飲食ヲ盆ニ列テ佛像ト僧侶トニ供シ死セル人ノ苦ヲ救ハントスルナリ蓋此ノ頃ノ人々ハ生キテ

過惡アルトキハ死シテ苦アルモノト信シタレバナリ

四方拜

ナルハニアルノ約 咏嘆法 思ウテ思フテノ正 否尾、作 結尾、理由 文ノ明ヌ

我が神聖ニ文武ナル天皇ハ一月一日ヲ以テ親ヲ四方ヲ拜シ國家ノ昌泰ト人民ノ安寧トヲ祈リタマフ是ヲ四方拜ト云フ國家ノ昌泰ナル人民ノ安寧ナル皆皇澤ノ渥ニ由ラザルハナシ嗚呼君アルコト此ノ如シ之ガ民タルモノ安ンゾ夙ニ夜ニ之ヲ思ウテ國利民福ヲ増進センコトヲ謀ラザルベケンヤ適開歲ニ際シ誠歡ノ餘謹ミテ之ヲ記ス

元始祭

一月三日 天皇宮中ノ神殿ニ出御シ親ヲ歷世ノ皇靈ヲ拜シタマフ恭シク惟フニ我が天祖業ヲ創メタマヒシヨリ列聖相承ケテ斯ノ國ヲ統治シタマヒ寶祚ノ長キコト天地ト共ニ悠久ナラントス祖宗ノ盛德ニ由ルニ非ズバ能ク此ノ如クナランヤ是歴

文章作例 單行文法

カノ字謙
辭法

世ノ皇靈ヲ拜シタマフ所以ナルカ謹ミテ記ス

四四

家族

家族トハ夫婦親子兄弟等一所ニ相集リテ一戸ヲ構ヘ生計ヲ營ムモノ、稱ナリ家族ノ一人ニテ父カ兄カ夫カハ必ズ家族ノ長トナル此ヲ戸主ト云フ

町村

家々集リテ人ノ住メル土地ヲ町トモ村トモ又市トモ云フ明治二十一年四月市町村制ヲ發布シ人口ノ多寡ニ從ヒテ町村ヲ區別シ人口二萬五千以上アルモノハ市ト稱スルヲ得シム從來町ト稱ヘ市街ノ体裁ヲナシタルモノハ之ヲ町トシ其ノ他ハミナ村トセリ其ノ事務ハ皆其ノ町其ノ村其ノ市ニテ自ラ治ムルコト、ナレリ之ヲ自治制ト云フ

郡

來リヤト
來リヤト
別

町村ノ相集リタルモノヲ郡ト云フ郡ノ大小廣狹地方ニヨリテ均シカラザレドモ人口ハ大抵五六萬ヲ限ルモノ、如シ郡内ノ事務ハ郡長スベテ之ヲ管理シ來リシガ明治二十三年四月ニ至リテ郡制ヲ發布セラレ別ニ郡會郡參事會等ヲ設ケ郡長トトモニ郡内ノ事務ヲ處理スルコト、ハナレリ

川中島ノ戰爭

アリキ
引用法
ガ

上杉輝虎村上義清ノ請ニ因リ之ヲ援ケテ武田晴信ト屢川中島ニ戰ヘリ其ノ間凡ソ十二年ニシテ數回ノ大戰ヲナシ殆ド晴信ヲ獲ントセシコトモアリキ賴山陽之ヲ賦シテ曰ハク鞭聲ハ肅々トシテ夜ニ河ヲ過グ曉ニ見ル千兵ノ大牙ヲ擁セルヲ遺恨ナリ十年一劔ヲ磨キシガ流星光底ニ長蛇ヲ逸スルコトハト

楠正行

正平五年北朝ノ將高ノ師直大軍ヲ率井テ南朝ニ迫ル楠ノ正行

文章作例 單行文法

四五

ナリキ
ガ
ナカリキ
トナカリ
別

馳セテ行在ニ詣リ奏シテ曰ハク是臣ガ命ヲ効ス秋ナリト天皇
之ヲ召シ慰メタマフコト再三ナリキ正行拜辭シカヘラジトカ
子テ思ヘバ梓弓ナキカズニ入ル名ヲゾトムルトイフ歌ヲ書
シ四條曝ニ至リ敵ヲ破ルコト數回ナリケルガ衆寡敵セズ身ニ
數多ノ創ヲ被リ弟正時ト耦刺シテ死セリ聞クモノ腸ヲ斷ザル
ハナカリキトゾ

仁徳天皇

至レリハ
直現法ナ
リ

仁徳天皇初メ高キ屋ニ登リ炊烟ノ稀ナルヲ望ミテ百姓ノ貧ヲ
憐ミタマヒ是ヨリ皇宮ノ屋ハ敗レ壁ハ壞ルレドモ少シモ修繕
ヲ加ヘズ專ラ民ヲ富マスコトヲノミ務メ給ヒシカバ後炊烟ハ
盛ニ揚ルニ至レリ後ノ人之ヲ詠シテ云ハク高キ屋ニノガリテ
見レバ烟タツ民ノカマドハニキハヒニケリト實ニアリガタキ
天皇ナリケリ

雪合戦

之ヲ桃行
戦ヲ退ク
交ニ直現
共ナリ前
法ル三文
ナシヨク
ト精シク
比セヨク

嚴冬雪ノ積ルニ際シ小童相集リ雪戦ヲナスモノ少カラズ某月
某日我が校亦之ヲ行フ期至ル各雪ヲ以テ壘ヲ高クシ溝ヲ深ク
シテ以テ戦ヲ挑ム頃クシテ呼聲ハ雷ノ如クニ轟キ雪丸ハ雨ノ
如クニ飛ビ或ハ拉シ或ハ突キ追フモノアリ逃グルモノアリ相
搏ツアリ勝敗未ダ決セザルニ兩軍交々退ク始業ノ期至ルヲ以
テナリ嗚呼雪ハ善ク用フルトキハ亦勇ヲ鼓シ體ヲ健ニスルニ
足ル豈獨其ノ色ノ人目ヲ慰ムルノミナランヤ

司馬溫公ノ圖ニ題ス

風光物態
ナ直叙セ
文トハ外
春絶看花
四雪戰等
花諸文等
ノ看スベ
參看スベ

此レ司馬溫公ノ遺像ナリ色ハ黃ニ貌ハ癯セ目ハ峻ニ準ハ直ク
須ハ疎ニシテ微シク長ク半ハ白シ耳下ニ在ルモノハ半ハ垂ル
耳輪ハ闊ク微シク面ニ向フ幅巾深衣ニシテ拱ヲ張り指ハ袂外
ニ露ハル至誠一徳富貴ヲ以テ其ノ心ヲ動カサズル意アリ

文章作例 單行文法

郊外ノ春景ヲ記ス

語ノ順逆ヲ知レ
遜和郁文ノ二句春ノ光邑犬ノ諸語ヲ分テ受ク略観アリ

一日放課ノ後郊外ニ散歩ス春光漾蕩トシテ新緑衣ヲ涵シ山ハ霞ヲ帶ビ水ハ煙ヲ吐ク邑犬ノ途ニ戯ル、アリ村女ノ草ヲ摘ムモアリ翩々トシテ風ニ飄ルモノハ學校ノ旗章ナリ丁々トシテ耳ヲ穿ツルモノハ水車ノ碓クナリ乃チ知ル邕和ノ氣天地ニ溢レ郁文ノ化村落ニ徧キコトヲ覽觀之ヲ久クシテ頗ル意ヲ慰ムト云フ以下六文作文的例節抄

開道落成式ノ祝辭

我が縣某郡ノ地ハ物産ノ多キコト實ニ縣内ニ冠タレド四面皆山ナルヲ以テ常ニ運輸ノ便ヲ欠ケリ是ニ於テ郡中ノ有志者開道ノ舉ヲ謀リ某年某月王ヲ興シ本年某月ヲ以テ其功ヲ竣ヘタリ是レ實ニ本縣殖産ノ一大源ヲ開キタルモノナリ欣喜ノ餘リ恭シク一言ヲ呈ス

架橋落成ノ祝辭

祝辭ヲ進ムル所以ヲ説ク

開明ノ國ニ在リテハ到ル處鐵路架橋ノ設有ラザルハナシ險ヲ夷ゲ巖ニ隧シテ以テ通行ヲ自由ナラシム我が邦文化日ニ開ケ道路ノ便前日ニ比スレバ難易懸絶セリ今某地ノ有志金ヲ募シ土木ヲ興シ巨梁ヲ某津ニ架ス其ノ工乍々竣シ開橋ノ式ヲ舉グ吾諸君ノ能ク國ノタメニ力ヲ効スヲ喜ブ豈祝辭ヲカルベケンヤ

卒業ヲ祝スル辭

引用法
トノ下ニイフ事ヲト客シタルナリ
シトメトノ別ヲヤノ解

古語ニ人克ク邇キニ勉ムレバ必ズ遠キニ致ストアリ君ガ勉強ノ常ニ衆ニ冠タルヲ以テ今日手ニ卒業ノ證ヲ握レリ若シ猶進ミテ止マズンバ古賢ノ域ト雖到リ難カラジ矧ヤ一世ノ英俊タルニ於テチヤ吾固ヨリ君ノ小成ニ安ゼサルヲ知ル故ニ謹ミテ祝辭ヲ進ム

文章作例 單行文法

祖先ヲ祭ル文

維年月日遠孫某謹ミテ清酌庶羞ノ奠ヲ以テ祭ヲ祖先ノ靈ニ致
 シテ曰ハク嗚呼祖先ノ業ヲ昔日ニ創スル櫛風沐雨ノ勞ヲ厭ハ
 ズ辛苦經營シ積德累善子孫ニノコスニ景福ヲ以テセリ是ヲ以
 テ物換リ星移リ家門永ク存シ本支百世年ヲ追ウテ榮昌ス爰ニ
 某不肖ノ身ヲ以テ餘慶ニ膺リ餘蔭ニ庇ハル熟系記ヲ披キ祖先
 艱難ノ大ナルヲ知リ此ノ身ノ菲薄ニシテ其ノ業ヲ墜サシコト
 ナ懼ル庶ハクハ身ヲ祖元ノ法軌ニ納レ福祉ヲシテ後裔ニ流レ
 令メンコトヲ伏シテ惟ミレハ此ノ祭ヲ享ケ此ノ志ヲ照鑑セヨ

謙信ヲ祭ル文

嗚呼公勇ヲ一世ニ振ヒ智ヲ海内ニ鬪ハンメ義ハ朝廷ヲ尊敬シ
 仁ハ北陸ノ民ヲ活ス鋒ヲ勁敵ニ交ヘテ村上義清ノ窘蹙ヲ救ヒ
 鹽ヲ仇國ニ輸シテ私怨ヲ甲斐ノ民ニ挾マズ高義勇烈今ニ至リ

直現法

テ赫々タリ嗚呼公ノ威武天下及ブナシ功業宜シク四海ヲ廓靖
 スベシ壯志未ダ中原ニ伸ビズ大星蚤ク營中ニ墜ツ哀イカナ天
 ニシテ公ノ志ヲ遂ゲンメズ吾レ公ヲ見ズト雖史傳ヲ披キ久シ
 ク公ノ義ヲ感ズ平生ノ嚮慕スル所ヲ陳シ以テ公ノ英靈ヲ弔ス
 公其レ颯トシテ來リ此ノ奠ヲ享ケヨ

二宮金次郎

二宮金次郎ハ家貧シカリケレバ學問モヒトリオボエニ覺エシ
 ノミニテ師匠ヲトリタルコトナカリキサレドモ幼トキキヨリ
 種々ノ難義ニ遭ヒテ知慧ヲ研キシカバ大ニ世ノ中ノ事ニ通シ
 殊ニ土地ヲ開キテ物産ヲ殖スコトニ巧ナルニ至リケリ廢レタ
 ル家ヲ興シ貧シキ村ヲ富マスナド其ノ手柄少カラザリキトゾ

德川齊昭

德川齊昭ハ國ヲ思フ心深ク大ニ士ノ心ヲヒキタテ大砲軍艦ヲ

文章作例 單行文法

過去法下
 二文同マ
 カリハク
 アリノ約
 ガリハバ
 アリノ約
 トアハト
 アアルハ
 アアルハ
 シタルモ
 ノナリ

造リテ國ノ備ヲナシケリ嘗テ蝦夷地ニ民ヲ移シ土地ヲ開キ產物ヲ興シテ大ニ富メル國トナシ又露國ノ防ヲナサズバアルベカラズトテ其計ヲ幕府ニ申シ立テタリキサレド其ノ事用ヒラレザリシカバ志アルモノハ皆之ヲ惜ミキトゾ

兒島高德

兒島高德後醍醐天皇ノ隱岐ニ移サレタマフトキカ、ルトキ力ヲ盡サミルハ卑怯ノフルマヒニユソトテ路ニテ天皇ヲ奪ヒ奉ラントシ二度マデマ過キサセタマフ路ニ待チ居ケレドモ其ノ事成ラザリシカバ夜ニマギレテ行宮ニ至リ櫻ノ木ヲケヅリ二句ノ詩ヲ書キツケテ己ガ心ヲノベタリキトゾ

京都市

京都市ハ山城ノ中央ニ在リ人口ハ二十五萬余リアリ紀元一千四百五十四年都ヲ此ニ奠メラレシヨリ以來歷朝ノ王城タリキ

コソノ下
ニアレテ
畧ス
トテノ間
ニ器語ア
リ

一位置人
口
二沿革

對語

三餘波

明治ノ始メ都ヲ東京ニ移サレタレド尙三府ノ一トシテ其繁昌ハ大坂ニ亞ギ市街ハ秩然トシテ基面ノ如ク道路ハ坦然トシテ砥石ニ似タリ四隣ノ山ハ秀テ水ハ清クシテ風景ニ富メリ

大坂市

大坂市ハ攝津ノ國ノ東南ノ部ニ在リ三十二萬餘ノ人此處ニ住メリ今ヨリ四百年前豊臣秀吉此ニ築キ渠ヲ開キテ漕運ヲ便ニセシヨリ大ニ殷富ナル地トナリ商業ノ盛ナルヲ全國ニ冠タリ陸軍師團ヲ此ノ城ニ置ケリ

文官

國家ノ政事ヲ整理スルモノヲ名ケテ文官ト云フ夫レ文官ハ上内閣ノ官ヨリ下ハ郡縣ノ吏ニ至ルマデ高卑大ニ異ナリト雖平生汲々トシテ事務ヲ整理シ一旦緩急アラバ職ノ爲ニ一身ヲ抛タントスルハ毫モ異ナルヲナシ岳飛云ハク文臣錢ヲ愛セズバ

文章作例 單行文法

雖ニ云フ
ノ意ナシ
異ナレド
モトスル
アヨキ
引用法

天下大平ナラント亦此ノ志概ヲ有スベキヲ云ヘルナリ

武官

外寇ヲ防ギ内亂ヲ鎮ムルハ武官ノ任ナリ武官ハ將校ノ貴ヨリ兵卒ノ賤ニ至ルマデ大ニ其等ヲ異ニスト雖常ニ孜々トシテ戰略ヲ講シ操鍊ニ熟シ一朝事アル時ニ當リテハ身命ヲ顧ズシテ國ニ盡スコトハ異ナルヲナカルベシ

神武天皇

神武天皇既ニ西國ヲ服シ給ヒシカドモ中國未平定セザリシカバ親ヲ舟師ヲ率井テ日向ヲ發シ玉ヒ難波ヨリ大和ニ進ミテ兄猾八十梟帥長髓彦等ノ賊ヲ誅シ其ノ降ルモノハ之ヲ赦シタマヒシカバ民爭ヒテ歸服セリ此ニ於テ都ヲ大和ニ奠メテ帝位ニ即カセタマヘリ今ノ紀元節トイヘルハ即チ此ノ日ナリ

菅原道眞

菅原道眞文學ノ家ニ生レタレドモ深ク政理ニ達シタレバ擢テラレテ政務ヲ執ル官トナリ遂ニ進ミテ右大臣ニ至レリ裁決流ル、ガ如クナリケレバ人々ミテ感服シケリ是ニ於テ左大臣藤原時平ニ讒セラレテ左遷セラレケリ今ノ天滿宮ハ此ノ人ヲ祭レルナリトゾ

比例

凡ソ兩數ヲ比較セント思ハマ一數ハ他數ニ幾倍セルカ若クハ幾分ナルカナ知ラズバアルベカラズ而シテ後數ヲ以テ前數ヲ除シテ得タル商ヲ其ノ數ノ比ト稱ス例ヘバ十ト五トノ比ハ二ナルガ如ク「コ」ノ數四アルトキニ方リテソノ比ヲ均一ニスルヲ比例ト云フ例ヘバ八ノ四ニ於ケル比ノ二ナルヲ推シテ十八ノ九ニ於ケル比ノ二ナルヲ知ルガ如ク

南北朝

文章作例 單行文法

過去ノ大
小ヲ比セ

餘波

餘波
ト云フノ下
コトヲ下
ナルヲ畧
シタリ

挿註法
總収此
下文此

後醍醐天皇ノ朝ニ足利氏反キケレバ新田氏等ニ詔シテ之ヲ討
タシメタマヒシカド克ダズシテ遂ニ吉野ニ幸シタマヒヌ之ヲ
南朝ト云フ吉野ハ京都ノ南ニアレバナリ足利氏更ニ豊仁親王
ヲ京都ニ立ツ之ヲ北朝ト云フ京都ハ吉野ノ北ニアレバナリ兩
朝並ビ立ツコト五十余年ニシテ皇統遂ニ一ニ歸セリ

延喜天曆ノ治

醍醐天皇叡慮ヲ政事ニ留メ玉ヒ寒夜ニ御衣ヲ脱シテ民ノ凍餒
ヲ察シタマフニ至レリキ之ヲ延喜ノ治ト云フ延喜ハ此ノ時ノ
年號ナリ村上天皇モ政事ノ得失ヲ小吏ニマデモ問ヒ玉ヒ精ヲ
勵シテ政ヲサメタマヒシカバ天下大ニ治レリキ之ヲ天曆ノ
治ト云フ亦此ノ時ノ年號ナリ後世治ヲ言フモノハ必ズ指テ此
ノ二朝ニナン屈スル

敬 礼

ナノ有
無ノ由リ
アノ屈ス
下ノ相異
レノ知

敬ハ心ノ敬ヒテ身ニ顯ハスモノナリ決シテ形ノ上ノミニテ
行フベキモノニ非ズ其ノ形ハ腰ヲ屈メ頭ヲ下グルモアリ更ニ
相當ノ詞ヲ以テ挨拶スルモアリサレド其ノ心ニ敬フコトナケ
レバ即チ詐ヲ行フモノナリ慎ムヘシ

寬 恕

解義法

寬恕トハ忍ビテ人ノ過ヲ宥スユト云フ人我ニ無禮スルユト
アリ人我が物ヲ傷クルコトアリトモ其ノ心ヲ和ゲテ忿ルコト
ナク人ニ怨ヲ受クルコトモナク人ニ愛セラル、ニ至ルベシ
故ニ曰ハク寬ナレバ衆ヲ得ト

恕トハ己ガ心ヲ推シテ人ニ及ボスヲ云フ我が好ム所ハ人モ之
ヲ好ミ我が悪ム所ハ人モ之ヲ悪ム故ニ人ニ交ルニハ恕ヲ以テ
スベシ人ノ過アルトキハ之ヲ假シテ怒ラズ人ノ無禮ヲナスユ
トアリテモ之ヲ容シテ怨マザルガ如キハ皆恕ノ事ナリ孔子モ

古語ヲ引
キテ立言
ナ證ス

文章作例 單行文法

終身行フベキモノトセリ重ミザルベクシヤ

重 力

星ノ大ナルモ地ニ近ケバ必ズ落ケ果ノ小ナルモ帶絶ユレバ必ズ落ツ其ノ落ツルハ地ノ物ヲ引ク力アルニ由ルナリ若ソノ間ニ物アリテ支ヘテ落チザラシメントスルトキハ物ハ輒チ此ノ物ヲ壓シテ止マザルベシ此ノ力ヲ物ノ重サトハ云フナリ

無 盡 性

人ノ力ハ物ヲ造ルコト能ハズ又毫モ物ヲ滅スコト能ハズ夕天然ノ物ヲ變ヘテ人造ノ物トナスニ止ルノミ是ヲ以テ世ノ開ケシ始ヨリ今ニ至ルマデ物ノ量ハ少シモ増スコトナク少シモ減ルコトモナシ是ヲ物質ノ無盡性ト云フ

王 政 復 古

慶應三年十月征夷大將軍德川慶喜表ヲ上リ職ヲ辭シ政ヲ還シ

奉ル是ニ於テ朝廷官制ヲ革メ命シテ曰ハク今ヨリ大小ノ政務悉ク朝廷ヨリ出ツ四方之ヲ體セヨト政權ノ武門ニ移リシコト六百八十餘年ナリシガ此ニ至リテ再ビ王室ニ復セリ此ヲ王政復古ト云フ

富 ヲ 恃 ム 可 カ ラ ズ

家富メル人ハ多クハ其ノ財産ヲ頼トシテ學問ヲ怠リ從ヒテ世事ニ疎ク動モスレバ過チヒキ起スヲ以テ家富メルモノハトリワケ學問ヲ博クセンコトヲ要ス

才 智 ヲ 恃 ム 可 カ ラ ズ

オト智トアルモノハ概己ガオト智トナ特ニ學問ヲ勉メズ遂ニ事物ノ道理ヲ誤ル甚シキモノハオナク智ナキモノヨリ却リテ大ナル過チ生ズルコトアリサレバオト智トアルモノハ特ニ學問ヲ深クシテ其ノ才智ヲ恃マサランコトヲ切要トス

以下三文
解明法ナ
リ試ニ之
順ニコト
少

節段ノ多
少ヲ觀ヨ
無節段

三節段

文章作例 單行文法

生糸

三節段

我が國ニ生糸アルハ遠ク神代ノ昔天照大神織殿ヲ建テ蠶ヲ養ヒタマヒシニ始マレリ其ノ用ハ之ヲ織物トシテ之ヲ服ズレバ柔ニ且ツ輕クシテ太ダ身ニ適ス現今之ヲ外國ニ輸出シテ大ニ國ノ利ヲナセリ

茶

四節段

本邦ニ茶アルハ鎌倉ノ時代僧榮西ガ宋ヨリ歸朝スルトキ種ヲ得テ之ヲ筑前ノ背振山ニ植ユシニ始マレリ其ノ味甘苦ナ交フ之ヲ飲メバ鬱氣ヲ散シ精神ヲ爽ナラシム方今之ヲ海外ニ輸出シテ國益ヲナスコト生糸ニ次グ

蠶

二節段

蠶ハ桑ノ葉ヲ食トシ既ニ長シヌレバ食ヲ廢シ細キ糸ヲ吐キテ繭ヲ造リ其ノ中ニ在レドモ數日ノ後蛾トナリテ之ヲ破リ再ビ

出デ、卵ヲ産ス世ニアラユル絹布ハ皆此ノ繭ヨリ取りタル糸ヲ以テ織リ成シタルナリ

槓杆

三節段

槓杆ハ力支二點ノ距離重支二點ノ距離ニ等シキトキハ其重ハ正ニ其力ト相平均ス力支二點ノ距離重支二點ノ距離ニ二倍若クハ數倍スルトキハ其ノ重ハ其ノ力ニ二倍若クハ數倍シテ正ニ相平均スルコトヲ得世上使用スル所ノ天秤ハ此ノ理ニテ作りタルモノナリ

音響

餘波

音ノ空氣中ニ播クサマハ恰モ石ヲ靜水ニ投ズルトキ波紋ヲ起シテ四方ニ布クガ如シ若岩ニ觸レ壁ニ觸ル、トキハ忽反射セラレテ再ビ耳ニ達ス世ニ山彦ト云ヘルモノ乃チ是ナリ甲斐國ニ此ノ多キハ四面皆山ナルニ由ルト云フ

文章作例 單行文法

尊王

引用法
忘カ忘
ラズルベ
トベカト

我等が常ニ仕へ奉ル皇室ハ天地ノ開ケシ初ヨリ此ノ大八洲ニ
君トマシマセル御方ニテ我等ノ祖先ハ概其ノ皇室ノ御末ナリ
故ニ其ノ名ハ君臣ニシテ其ノ實ハ父子ナレバ其間ノ情誼彼ノ
外國ノ君臣ナドノ如キモノニ非ズ實朝公ノ歌ニ山はさけ海は
あせなん世なりとも君に二心我あらめやもト我等ハ朝夕ニコ
ノ念ヲ忘ルベカラズ

敬神

係結ト
語ノ強弱ト

吾人ノ日ニ拜シ奉ル神明ハ開闢ノ時ヨリ此ノ日本國ニ於テ種
々ノ益ヲナシタマヒシモノニテ吾人ノ祖先ハ皆其ノ恩ヲ蒙リ
シモノナリ故ニ其ノ名コソ神トイヘ其ノ實ハ國ニ大益アリシ
人々ニテ彼ノ愚人ガ禍ヲサケ福ヲ求メントスルナドノ如キモ
ノニ非ズ本居大人ノ詠セル歌アリ世ノ中ハ何ニツケテモ神ヲ

思へ神ノメグミヲユメツスルナヨ

源頼朝

源頼朝ハ源義家ノ孫ナリ幼ニシテ鬼武者ト稱ス人トナリ沈毅
ニシテ度量アリ初兵ヲ擧ゲテ平氏ヲ伐テ敗走セシトモ後ニ至
リテ木曾ヲ討テ平氏ヲ征シ義經ヲ殺シ遂ニ奏シテ諸國ニ守護
ト地頭トヲ置キ自ラ之ヲ統御シ天下ノ權勢悉ク其ノ掌ニ歸シ
名ケテ總追捕使ト云フ是ゾ武門政治六百年間ノ基ナリケル

楠正成

正成ハ河内ノ人氏ハ楠幼名ヲ多聞丸ト曰フ長トナリテ忠勇絶
倫善ク兵ヲ用フ屢土寇ヲ平ゲシ功ヲ以テ左衛門尉トナル北條
高時ノ後醍醐帝ヲ隱岐ニ遷シ奉リシ時義兵ヲ擧ゲテ賊ヲ伐テ
功ヲ以テ攝津河内和泉ノ守護ニ任ゼラル後足利氏反スルニ及
ビ賊ヲ京師ニ伐テ之ヲ復セシガ終ニ湊川ニ戦ヒテ之ニ死セ

文章作例 單行文法

節段ヲ觀
下文中同
直現法

リ時ニ年四十三ナリ

青砥藤綱

時間法

鎌倉幕府ノ頃青砥藤綱トイフモノアリケリ一夜川ヲ渡リ一錢
 ナ水中ニ遺シケルニ藤綱直ニ人ヲ雇ヒ松明ヲ購ヒテ之ヲ撈セ
 シメタリアル人其ノ小ヲ得テ大ヲ失フヲ嘲リケルニ藤綱對
 ヘテ水中ノ錢ハ撈セズバ永ク世ノ寶ヲ失ハン人ニ與ヘシ錢ハ
 永ク世ノ用ヲナセバ吾手ニ在ルガゴトシト云ヒケレバ其ノ人
 大ニ慚ヂテ去リタリキトゾ嗚呼藤綱ノ如キモノハ物ノ輕重ヲ
 知レルモノト云フベキカナ

行事ヲ評
論ス

司馬光

支那ニ司馬光ト云フ人アリケリ幼キトキ衆童ト某家ノ庭ニ遊
 ベルニ一童大甕ニ攀ヂ過テ其ノ中ニ落テヌ衆童之ヲ見テ大
 ニ狼狽セリ光ハ直ニ臂ヲ攘ケ石モテ甕ヲ碎カントシケレバ衆

論斷

童家人ノ怒ヲ招ガントテ止メケルニ光輒一ノ甕ハ輕ク人ノ命
 ハ重シト云ヒツ、遂ニ碎キテ童子ヲ救ヒケリ光ハ幼ナレトモ
 事ノ緩急ヲ知リタルモノト云フベシ

日本武ノ尊

日本武尊ハ景行天皇ノ皇子ナリ初メ九州ノ賊天皇ノ命ニ抗ゼ
 シカバ尊一ノ妙策ヲ設ケテ其ノ賊魁ヲ誅シタマヒ後東ノ夷相
 戰ヒテ擾レケレバ尊又之ヲ鎮メタマヘリカク西ヲ征シ東ヲ伐
 ナテ國ノ益ヲナシ玉ヒシカバ其ノ御子ハ天皇ノ位ニノボリタ
 マヘリ古語ニ善ニ善報アリトハカ、ルヲ云ヘルニヤ

武内ノ宿禰

武内宿禰ハ蘇我氏ノ祖ナリ初メ神功皇后ヲ佐ケ奉リ海ヲ渡リ
 テ三韓ヲ伐テ我が屬國トナシ後忍熊王麿坂王皇位ヲ奪ハン
 トシケレバ計ヲ設ケテ之ヲ攻メ殺セリカク外ヲ服シ内ヲ治メ

九州云々
ハ客尊ハ
ノ妙策ハ
主東夷ハ
客尊又云
々ハ主

前文ニ尊
ノ字數見
ハレ此ニ
武内ノ字
ヲ用フル

文章作例 單行文法

僅ニ一回
ナリ
詳略法ヲ
知ルベシ

倒語
對語
疊句
文勢ヲ玩
味セヨ
下同

前ナル京
都ノ文ヲ
看ヨ

テ天皇ニ忠ヲ盡シ、カバ子孫ハ多少大臣ノ職ニ上レリ積善ノ家ニハ餘ノ慶アルコト此ヲモテ見ルベシ

酒ノ害

甚イカナ酒ニ耽ル害ハ自ラ曠達ヲ負ヒ座ヲ事機ヲ失シ爲スベカラザル所モ悉ク之ヲ爲シ云フベカラザル所モ悉ク之ヲ言ヒ妻子ヲ罵リ師友ニ傲リ甚シキトキハ職ヲ落シ業ヲ失フニ至ル古人之ヲ狂藥トシ昏性水ト云ヒ破家湯ト呼ベルモウベナルカナ

農ノ苦

大ナルカナ農ノ苦ハ風ニ梳リ雨ニ浴シ牛馬ト共ニ泥濘ヲ攪キ之ニ培ヒ之ニ漑ギ莠ヲ去リ蝗ヲ攘ヒ其ノ收穫ノ秋ニ至レバ之ヲ刈リ之ヲ磨シ之ヲ簸シテ之ヲ苞ニ盛ル其ノ間頭髮ハ雲ノ如ク擾レ手足モアカ、リシテ鬼ニ似タリ古ヨリ之ヲ大御寶ト愛シ之ヲ國ノ本ト云ヒ粒々皆辛苦ト云ヘル實ニサルコトナリ

倫敦

倫敦ハ英國ノ首府ニシテ人口四百萬アリ市街ハ櫛比シテ立錐ノ地ナク家屋宏壯ニシテ八層ノ樓アリ鐵路ハ地ニ滿テ往來ハ織ルガ如ク汽車ノ屋上ノ高架ヲ巨ルモノアリ地下ノ隧道ヲ通スルモノアリ河岸ニハ船舶輻輳シ帆檣林立セリ云フ其ノ殷盛ナルコト想フ可シ

漢城

漢城ハ朝鮮ノ首府ニシテ人口二十六萬アリ四壁ニ壘ヲ遶ラシ門ヲ八方ニ設ケテ往來ヲ通ゼリ王宮大宅皆其ノ中ニ在レトモ市街狹隘民家矮陋ナリ市中ニ報辰鐘ヲ置キ人定鐘ニ至レバ非常ノ外市民ノ往來ヲ禁ズト云フ

北京

支那政府ノ在ル所ヲ北京ト云フ王宮官衙甚宏壯ヲ極メ街衢縱

文章作例 單行文法

横人ノ肩ヲ摩リ車ハ轂ヲ擊テ其ノ熱鬧ナルコト英國ノ倫敦ニ
 亞ギ人口凡ソ百六十萬餘アリ然レドモ道路ニ凹凸多ク雨降レ
 バ泥濘ニ膝ヲ没シ旱ズレバ塵埃輪ヲ埋メ丐兒ハ巷ニ屯シテ食
 テ行人ニ求ム其ノ醜キコト亦外邦ニ見聞セザル所ナリト云フ
 伯 林
 普魯士第一ノ都會ヲ伯林ト稱ス地勢ハ平坦ニシテ市坊端正大
 厦高屋築クニ煉瓦ヲ以テシ塗ルニ白聖ヲ以テシ其ノ觀極メテ
 壯麗ナリ此ノ地商業ノ中心ニ當ルヲ以テ時ニ歐洲各國ノ中央
 會場トナリ商賈製造ノ盛ナルコト各國ノ都府ニ冠タリ其ノ人
 口百三十萬ニ餘レリトゾ

正反法
 學問

左ノ諸語
 ニ注意ス
 ベシ
 若クハ
 ナクハ

人ハ生レナガラ知識アルモノニ非ズ何事モ知識アル人ニ依リ
 テ學問シテ漸ク知識ヲ開キ世ノ中ノ用ヲ辨ズルモノナリ若學
 問シテ知識ヲ得ルコトナクハ如何ニ長大強健ノ身ナリトモ何
 事ヲモ爲スコト能ハザルコト牛馬ト齊シカルベシ是レ學問ノ
 必要ナル所以ナリ

報 恩

人ハ生レナガラ自ラ衣自ラ食フコトヲ得ルモノニ非ズ何事モ
 父母ノ恩ニ頼リテ生活シ漸ク獨立スルニ至ルナリ若父母ナク
 テ衣食ヲ與フルモノナクハ決シテ生活ヲ遂グルコト能ハザル
 ベシ是レ親ニ恩ヲ報ユルコトノ必要ナルユエナリ

誠 實

人タルモノ常ニ誠ヲ以テ人ニ接リ事ヲ行ヒ毫モ我が心ニハ
 ヅカシキコトナクハ自然ニ人ニ尊バレ世ニモ重ミセラルベシ

文章作例 正反法

ノ海皆同胞ト睦ミナバ世ニ波風ハ立タジトゾ思フ此レコソ旨
ヲ詠ジタマヘルナリ

養生

身體ヲ健ニセント欲セバ飲ミ食ヒテ慎ミ衣服ニ注意シ清潔ヲ
旨トシテ汚垢ヲ去ルベシ身體健ナルトキハ忠孝ノ務モ自在ニ行
ハルベク人生ノ樂モ隨意ニ取ルコトヲ得ベシ若然ラデハ忠孝ノ
務モ行フコト能ハズ人生ノ樂モ得ルコト能ハザラン故ニ今上
天皇ノ詔ニ人生貴ブ所ノモノハ身體ノ健全ニシテ之ヲ保護ス
ル根基ハ醫學ニ由ラザルハナシト宣ヘリ

國法

國ニ法アルハ臣民ニソノナスベキコトヲ命ジナスマジキコトヲ禁
ズルモノナリ若此ノ法ナクハ臣民皆ソノナスベキコトヲナサズ
ソノ爲スマジキコトヲ爲シテ遂ニ亂レ頽ルニ至ルベシ故ニ我が

ガ世々ノ天皇ハミナ國法ヲ定メ臣民ノ向フ所ヲ示シタマヒヌ
上ヲ敬ヒ義ヲ重ンズルモノ之ヲ講ゼズバアルベカラズ

奢侈

奢トハ我が情ニ曳カレ心ノ欲スルマ、ニ衣食住ヲ盛ニスルヲ
云フ是諸惡ノ本ニテ身ヲ貧シキニ陷レ家ヲ滅スモ此ヨリ生ズ
之ニ反シテ己ガ分ヲ守リ衣ハ寒サ暑サヲ防グヲ主トシ食ハ身
體ヲ養フニ足リ家ハ雨風ヲ覆フニ止ルトキハ是諸善ノ原ニシ
テ身ヲ安穩ニ置キ家ヲ千歳ニ保ツコトモ亦此ヨリ起ルベシ

愛

愛トハ人々相憐ミ相助クルヲ云フ此ハ人ト人トノ間ヲ合ハス
ル必要ノモノニテ社會ノ因リテ立ツ所ノモノナリ之ヲキトキ
ハ君臣モ父子モ朋友モ相ハナレテ一日モ立ツコトアダハザル
ベシサレバコソ世界ノ教一トシテ之ヲ重ゼヌモノナキナラヌ

文章作例 正反法

儒ニ仁トイヒ耶蘇ニ愛ト云ヒ釋ニ慈悲ト云ヘルモミナユレニ
ゾアル

自省

人タルモノ常ニ身ノ善惡ヲ省ミ致々トシテ其ノ惡ヲ去ルトキ
ハ善良ノ人トナルベシ趙康靖ガ豆ヲモテ之ヲ識シ范仲淹フラ
ンクリンガ帳簿ニ記シ、ガ如キハ皆則トスベキコトナリ若人
ニシテ自省ノ念ナク茫然トシテ日ヲ送ルトキハ心荒ミ行敗レ
テマタ救フコト能ハザルニ至ルベシ

新聞

新聞ハ世上ノ事ヲ記シ衆人ノ説ヲ載スルモノナリ故ニ之ヲ讀
マハ深キ室ニ在リテモ廣ク世ノ事情ヲ悟リ田舎ニ居テモ普ク
人ノ議論ヲ知ルベシサレド事ノアヤマレルモノ説ノヨカラヌ
モノモ少カラネバ人々心スベキコトニコソ

和親

凡ソ人々力ヲ戮セ心ヲ協スルトキハ相扶ケ相倚リテ如何ナル
大事ヲモ成スコトヲ得ベシ況ヤ事ノ小ナルモノナヤモシ然ラ
デ心散リ力分レナバ如何ナル小事ナリトモナシアタハザルベ
シ況ヤ大事ヲヤサレバ人々常ニ相和スルコソ肝要ナレ

慎獨

獨ヲ慎ムトハ己ガ獨リ知レル心中ノ事ヲモ假初ニセザルコト
ヲ云フガ、ル人ハ決シテ遠近明暗死生ナドニテソノ心ヲ二ニ
スルコトナシ蘧伯玉ガ夜車ヲ君門ニ下レル泰時ガ賴朝ノ墓ニ
上ラザル揚震ガ夜金ヲ受ケザルナドミナ是ナリ然ラズ人ハ遠
近明暗死生モテソノ心ヲ二ニスルヲ以テ行ニ表裡アリ遂ニハ
惡德ノ人トナルナリ

正説ノ三
例ヲ舉ク

文章作例 正反法

惜陰

陰ヲ惜ムトハ一時一日モ益ナキ事ヲ思ヒ益ナキ事ヲ行ハザルニ在リ今一時ノ間無用ノ事ヲ思フハ一時ヲ徒費スルモノナリ一日ノ間無益ノ事ヲ行フハ一日ヲ徒費スルモノナリ況ンヤ惡事ヲ思ヒ惡事ヲ行フニ於テチヤ「清正ガ人ヲ廁ニ賞シタル登蓮ガ雨ノ晴ル、ヲ待タデ人ヲ訪ヒタル賴宜ガ再ビ十四歳ナキニ怒レルミナ陰ヲ惜ミシモノナリ」

正例ヲ最尾ニ擧ク
テハズシ
テハズシ
約ナ

一頭兩脚法

尺度

尺度ハ物ノ長短ヲ度ル器ナリソノ制曲尺鯨尺ノ二アリ曲尺ノ一尺ハ鯨尺ノ八寸ニ當リ鯨尺ノ一尺ハ曲尺ノ一尺二寸五分ニ當ル皆尺ノ十分ノ一チ一寸ト云ヒ一寸ノ十分ノ一チ一分ト云

ヒ尺十ヲ集メテ之チ一丈ト云フ

馬車

馬車ハ馬ノ挽ク車ニテ二輪ノモノアリ四輪ノモノアリ二輪ノモノハ多ク馬ノ力ヲ減ゼザル故自ラ世ニ少ク四輪ノモノハ頗馬ノ勞ヲ省ク故ニ自ラ世ニ多シ此ノ二ツ共ニ皆物ヲ積ミ人ヲ載ス

衣服

衣服ハ身體ニ被フモノニテ二ツノ用チカヌ禮儀ヲ齊フルト衛生ヲ重ズルトナリ形常ニ異ナリ或ハ分限ニテサハヌモノハ禮儀チミダシ清潔ナラズシテ垢ツケルモノハ衛生ニ害アリコノ二ツハ衣服ニ於テ常ニ注意スベキコトナリ

船

船ニハ蒸氣船ト風帆船トアリ蒸氣船ハ蒸氣ノ力ニテ行キ風帆

汽船ノ汽
ト蒸氣ノ汽

文章作例 一頭兩脚法

氣トキ混
ナカレ
ナカレ

船ハ風ヲ帆ニ受ケテ走ル皆舵アリテ船ノ方向ヲ誤ラザラシム

友ヲ擇ブ

人タルモノハ朋友ヲ擇ブベシ朋友善良ナルトキハ己モ亦自然ニ善良トナリ朋友不良ナルトキハ己モ亦不覺ニ不良ニ化ス諺ニ人ハ友ノ善惡ニ由ルトハ之ヲ云フナリ

大神宮

大神宮ハ伊勢ノ國ニ在リ宇治ニ在スヲ内宮ト云ヒ山田ニ在スヲ外宮ト云フ内宮ハ天照大神ヲ祭レル所ニテ紀元六百五十六年創メテ建ツル所ナリ外宮ハ豊受大神ヲ祭レル所ニテ一千一百三十八年ノ創建ニ係ル皆社殿ハ宏壯ナレトモ構造極メテ質素ニシテ丹漆ヲ用ヒズト云フ

米

米ニ二ノ種類アリ一ヲ粳米ト云ヒ一ヲ糯米ト云フ粳米ハ飯ニ

ト云フ
用法解義

孝養ノ文
ナルト云
フト比セ

炊キ酒ヲ釀シ饊ヲ製シ又麴トシ之ヲ和シテ味噌ヲモ作ル糯米ハ餅トナシ煎餅トナシ強飯トナシ或ハ白酒味淋酒ヲ造ル皆共ニ必要ナルモノナリ

動物

動物ヲ分ケテ有脊椎無脊椎ノ二類トス獸鳥魚蝦蟆蛇ノ類ハ脊椎アルモノニシテ貝蝶蜂蜘蛛蚯蚓ノ類ハ脊椎ナキモノナリ脊椎アルモノハ上等ニシテ然ラザルモノハ下等ナリ而シテソノ甚シキモノハソノ體微ニシテ見ルコト能ハザルモノアリト云フ

眼

眼ニ遠眼ト近眼トノ二アリ遠眼ハ眼球ノ前部ノ低クナリタルニ由リ近眼ハ眼球ノ前部ノ高クナリタルニ由ル故ニ遠眼ヲ補フニハ凸キ眼鏡ヲ用ヒ近眼ヲ補フニハ凹キ眼鏡ヲ用フベシ

説明法

文章作例 一頭兩脚法

孝 養

註釋法

父母ヲ養フニ志ヲ養フト體ヲ養フトノ二アリ父母ノ心ニ從ヒテ少シモ逆フコトナク常ニソノ志ヲ樂マシムルヲ志ヲ養フト云ヒ父母ノ衣服ヲ暖ニシ食物ヲ甘クシソノ健康ヲ保タシムルヲ體ヲ養フト云フ子タルモノ此ノ二ツヲ能クセザレバ其ノ本分ヲ盡ストハイフベカラズ

地 動

地球ノ運動ニ二種アリ自轉ト公轉ト是ナリ自轉トハ自其ノ軸ヲ中心トシテ二十四時ノ間ニ西ヨリ東ニ向ヒ一回轉スルヲ云フ此ノ時其ノ太陽ニ向フ部ハ晝トナリ之ニ背ク部ハ夜トナル公轉トハ地球ノ自轉ヲナス間ニ又絶エズ太陽ノ周圍ヲ進行シ一年ヲ成ス運動ヲ云フ其ノ太陽ノ先ヲ直ニ受クル處ハ夏トナリ然ラザル地ハ冬トナリソノ中間ハ春秋トナル

生 活

生活トハ榮養ト排泄トノ二ツノ働ノ謂ナリ榮養トハ食物ヨリ養ヲ取リテ體ヲ作ル働ヲ云ヒ排泄トハ體ノ養ヲ終ヘテ出ヅル汗尿糞ナドヲ云フ入ノ生命アル間ハ此働片時モ止ムコトナシ

勇 氣

勇ニ血氣ノ勇アリ義理ノ勇アリ血氣ノ勇トハ氣質ノ強キノミニテ義ヲキナ以テ一旦緩急アルニ方リテハ節操ヲ守ルコト能ハズ宇都宮公綱ノ如キモノ是ナリ義理ノ勇ハ氣質甚ダ強カラズト雖心ニ守ル所アルカ故ニ大節ニ臨ミテモ毫モ變ズルコトナシ平重盛ノ如キモノ是ナリ然レバ人タルモノ血氣ノ勇ヲ恃マズ義理ノ勇ヲ養フコソ必要ナレ

朋 友

朋友ニ益友アリ損友アリ善ヲ勸メ惡ヲ戒メ艱難アレバ相救ヒ

文章作例 兩脚法

例證法

以テ

血氣ノ勇
義理ノ勇

マリタル割合ニ由リテ加減スル連數ヲ云フ例ヘバ一ヨリシテ
三ニ上リ三ヨリシテ五ニ上リ五ヨリシテ七ニ上ルガ如キ又十
二ヨリ十二下リ十ヨリシテ八ニ下ルガ如キハ皆等差級數ニシ
テ二ヨリ六ニ上リ六ヨリ十八ニ上リ又六十四ヨリ三十二ニ下
リ三十二ヨリ十六ニ下ルガ如キハ等比級數ナリ

財本

財本ヲ分チテ固定財本ト流動財本トノ二種トス固定財本トハ
永ク動かザルモノニシテ例ヘバ農家ノ小舎器具牛馬製造家ノ
倉庫器械ノ如キモノヲ云フ流動財本トハ一タビ出ヅレドモ循
環シテ再ビ復リ來ルモノヲ云フ農家ノ耕夫牛馬ニ費ス食物種
子ノ費用製造家ノ職工ニ拂フ賃金ノ如キモノ是ナリ

元素ト化合物ト

化學ヲ説クモノ萬物ヲ分チテ二トナス元素ト云ヒ化合物ト云

例證

餘波

フ是ナリ「元素トハ單純ニシテ如何ナル仕方ニ由ルトモ其ノ内
ヨリ一モ異質ノ物ヲ得ベカラザルモノヲ云ヒ化合物トハ之ヲ
分析スルトキハ其ノ内ヨリ二個以上ノ異チリタル物質ヲ得ベ
キモノヲ云フ」金銀鐵ノ如キハ元素ニシテ水空氣ノ如キハ化合
物ナリ「凡ソ元素ハ其ノ性質ノ大ニ異ナルモノ最モ善ク相化合
スト云フ

職業

職業ヲ大別スルトキハ心ヲ勞スルモノト力ヲ勞スルモノトノ
二ナリ「心ヲ勞スルモノハ官吏ノ如キモノ是ナリ力ヲ勞スルモ
ノハ農工商ノ如キモノ是ナリ」世人往々心ヲ勞スルモノ、ミテ
崇ビテ力ヲ勞スルモノヲ賤メドモ元來人ノ品位ハ志ト行トニ
由ルモノニシテ職業ノ尊キ卑キニ由ルモノニ非ズ古ヨリ官ハ
高キヲキハントテ耻ヲ長キ世ニ遺シ、モノアリ身双ノ下ニ死シ

引例

文章作例 兩脚法

テ芳名ヲ千歳ニ傳ヘシモノアリユレラニテ此ノ理ヲ知ルベシ

宗教

地球上ノ人民各信仰スル所アリ之ヲ宗教ト云フ宗教ニハ一ツノ神ヲ拜ムモノト多クノ神ヲ崇ブモノトアリ猶太教耶蘇教回教ハ一ノ神ヲ拜スルモノニシテ婆羅門教釋教ハ多クノ神ヲ崇ブモノナリ今猶太教ハ猶太人種ノ間ニ行ハレ耶蘇教ハ歐米各國ニ行ハレ回教ハ專ラアラビアニ行ハレ婆羅門教ハ印度ノ一部ニ行ハレ釋教ハ亞細亞ノ東部ニ行ハル

筋

人身ノ軟カナル部分ハ大抵筋ヨリ成レリ筋ハ率此ノ骨ヨリ起リテ彼ノ骨ニ附キソノ伸ビ縮ミニ由リテ身體ヲ動カス而シテ之ヲ隨意ト不隨意トノ二ニ分ツ隨意筋トハ其ノ意ノマ、ニ動クモノニシテ骨格ノ外部ニ在ルモノ多ク之ニ屬シ不隨意トハ

前ニ反スルモノニシテ心臟血管腸胃等ヲ組成セルモノナド是ナリ

唧筒

唧筒ハ水ヲ高キ處ニ揚グル器ニテ吸上唧筒壓送唧筒ノ二アリ共ニ一個ノ圓筒ト其ノ中ニ上下スベキ活塞トヨリ成リテ且ツ各二個ノ瓣ヲ具ヘリ其ノ一個ハ吸上唧筒ニ在ルモノハ活塞ニ設ケ壓送唧筒ニ在リテハ筒壁ニ設ケ其ノ他ノ一ハ共ニ其ノ筒底ニ在リ

一頭三脚法

遊戯

遊戯ヲナスニハ人ノ妨ゲトナルコト危キコト卑シキコトヲ爲スベカラズ入ノ妨ゲトナルコトハ人ニ忌マレ危キコトハ身ヲ

一總説
二細説

文章作例 一頭三脚法

三收結

害ヒ卑シキコトハ人ニ輕ゼラルユレ皆兒童タルモノ、常ニ戒ムベキコトナリ

傘

傘ニハ雨傘涼傘蝙蝠傘等アリ雨傘ハ竹ヲ骨トシ紙ヲ帳リ之ニ油ヲ塗リテ雨ヲ防グ涼傘ハ油ヲ塗ラズ日光ヲ防グ蝙蝠傘ハ鐵ヲ骨トナシ織物ヲ帳リ晴雨共ニ用フ

貨幣

貨幣ニ金銀銅等ノ數種アリ金貨ニハ二十圓十圓五圓二圓一圓ノ五種アリ銀貨ニハ一圓半圓二十錢十錢五錢ノ五種アリ銅貨ニハ二錢一錢五厘一厘ノ四種アリ十厘ヲ以テ一錢ニ換ヘ百錢ヲ以テ一圓ニ換フ

天然物

天然物ヲ分ナテ三種トス動物植物礦物是ナリ動物ハ生活ノ力アリ感覺ノ能アリ又自ラ運動ヲナス植物ハ生活ノ力アレドモ感覺ノ能ナク又自ラ運動スルコトナシ礦物ハ生活ノ力ナク感覺ノ能ナク又自ラ運動スルコトナキモノナリ

鐵

鐵ニ三種アリ鑄鐵鍛鐵鋼鐵是ナリ鑄鐵ハ其ノ質脆クシテ鋸ヲ展バスペカラズ鍋釜鐵瓶等ヲ作ルベシ鍛鐵ハ最柔靱ニシテ抽引セバ線トナルベシ鋤鐵打等ヲ作ルベシ鋼鐵ハ前ノ二者ノ中間ニ在リテ彈力頗強シ刀劍刃物ヲ作ルベクペンゼシマイチ作ルベシ鐵軌車軸及滾罐ノ鐵板ヲ作ルベシ

書物

書物ヲ販賣スル家ヲ書肆ト云フ書肆ニハ和漢西洋ノ書物ヲ備フ和書ハ我邦ノ言語ニテ綴リタルモノニシテ漢書ハ支那ノ言語ニテ作りタルモノナリ而シテ西洋ノ書ハ英獨佛其ノ他種々

節段ノ變
化ヲ觀ヨ

文章作例 一頭三脚法

ノ文章ヲ以テ作りタルモノナリ

三種ノ神器

申スハ敬
一旬總收

三種ノ神器トハ草薙劍八咫鏡八坂瓊勾玉ヲ申ス草薙劍ハ素盞鳴尊之ヲ出雲ニ得タマヒ八咫鏡ハ石凝姥命之ヲ造リ八坂瓊勾玉ハ天明玉命之ヲ造リ王ヒ皆天照大神ニ上リテ後大御神皇孫瓊々杵尊ニ授ケタマヒシモノナリ現今劍ハ尾張ノ熱田神宮鏡ハ伊勢ノ皇大神宮玉ハ宮中ニ在リ皆皇室ノ重キ御寶ナリ

寒暖計

寒暖計ハ硝子管ニアルコトル若クハ水銀ヲ盛り其ノ縮張ニ由リ溫度ノ高低ヲ驗スル器ナリソノ類三アリ攝氏列氏華氏はナリ攝氏ハ氷點ヲ零度トシ沸騰點ヲ百度トシ其ノ間等シク之ヲ分ナテ百トナセリ列氏ハ氷點ハ之ニ同シケレドモ沸騰點ヲ八十度トシ其ノ間ヲ八十二分テリ華氏ト氷點ヲ三十二度トシ沸騰點ヲ二百十二トシ其ノ間ヲ百八十度ニ分テルヲ以テ零度ハ遠ク氷點ノ下ニ在リ三ノ中刻度ノ最モ簡ニシテ使用ニ便ナルハ攝氏ナルヲ以テ世多ク之ヲ用フ

數ノ三稱

一總說
二解説
三例證

數ノ名稱ニ三アリ整數分數小數是ナリ整數トハ數ノ完全ナルモノヲ云ヒ分數トハ完全ナラザルモノヲ云ヒ小數トハ一個ニ達セザルモノヲ云フ一、九、十一、廿五、ノ如キハ整數ナリ二分ノ一五分ノ四七分ノ三ノ如キハ分數ナリ五分九分九厘八毛等ハ即小數ナリ

生財ノ三要

勞働財本天然力ヲ稱シテ生財ノ三大要トス此ノ三ノ者備ラザレバ決シテ生財ノ目的ヲ達スルコト能ハス今ソノ一例ヲ舉ゲテ云ハンニ農ノ穀菜ヲ植ウル土地ハ自然力ニシテ其ノ種子ハ

文章作例 一組三脚法

財本ナリ而シテ之ヲ耕作シ之ヲ收穫スルハ即チ勞働ナリ

三 景

陸前ノ松島丹後ノ天橋立安藝ノ嚴島チ國內ノ三勝ト云フ松島ハ數百ノ小島海灣ニ列リ青キ松其ノ上ニ茂リ生ヒテ白波ト相ウツラヒ天橋立ハ一條ノ長洲海灣ニ突キ出ヅルコト二十七町一帶ノ翠ノ松波ノ上ニ浮ビテ白キマサゴニ映シ嚴島ハ奇岩四方ニ峙テ祠岸ニ架シ潮満ツルトキハ閣廊波ニ浮ベルガ如シ其ニ景色ノアザヤカナルヲ以テ來リ遊ベルモノ甚多シ

鏡

鏡ニ三アリ平面鏡ト云ヒ凹面鏡ト云フ凸面鏡ト云フ平面鏡ハ肖像鏡面ヲ距ルコト實物ト同距離ノ處ニ現ハレ且ソノ大モ實物ニ等シ凹面鏡ハ光線ヲ集合スルヲ以テ映出スル所ノ肖像ハ眞物ヨリモ大ナリ凸面鏡ハ放散スルヲ以テ映ズルモノハ眞物

ヨリモ小ナリ

物ノ三體

先ツ例チ
明スケテ説
萬物ノ一
節ヲ取リ
置クモ可
ナリ

萬物ノ體ヲ分ケテ三トナス氷ノ如ク固キモノチ固體ト云ヒ水ノ如ク流ル、モノチ液體ト云ヒ蒸氣ノ如ク擴散シヤスキモノチ氣體ト云フ萬物ノ數千萬アリトモ皆此ノ三體ノ外ニ出デズ固體ト液體トノ異ナル所ハ形狀ノ變シ難キト易キトニ在リ氣體ト氣體トノ異ナル所ハ縮メガタキト縮メヤスキトニ在リ

農ノ三務

農ノ要務三アリ種子ヲ擇ブナリ時節ヲ考フルナリ地勢土質ヲ察スルナリ種子良ナラザルトキハ善良ノ穀ヲ得ルコト能ハズ時節適セザルトキハ夥多ノ穀ヲ得ルコト能ハズ地勢土質ヲ察セザルトキハ高低燥温肥沃瘠鹵ヲ別ツコトアダハズ此ノ如クハ決シテ農業ヲ盛ニスルコト能ハザルベシ

文章作例 一頭三脚法

釋義ニ於
テ其範圍
ヲ精密ニ
シ考察スベ
ク

利息算

利息算トハ金錢ヲ貸シ用ヒタル報酬ヲ知り或ハ其ノ使用ノ年
月ト其ノ使用ノ金額トヲ知ル法ヲ云フ使用ノ金ヲ元金ト云ヒ
報酬ノ金ヲ利金ト稱ス利金ニ二種アリ單利ト重利ト是ナリ單
利トハ元金ノミニ利息ヲ生ズルモノヲ云ヒ重利トハ利息マダ
更ニ利息ヲ生ズルヲ云フ

國體

地球上ノ萬國ハ皆其ノ國ノ成立ニ由リテ其ノ國體ヲ異ニスレ
ドモ大ク之ヲ別テバ帝國王國共和國ノ三ニ過ギズ共和國ハ國
民ニ撰舉セラレタル大統領ノ治ムル國ニシテ佛蘭西北米合衆
國等はナリ王國ハ國王ノ統ブル國ニシテ英吉利西班牙和蘭皆
是ニ屬ス帝國ハ皇帝ノ統ブル國ニシテ露西亞支那奧地利獨逸
ミナ之ニ屬ス王ト帝トハ其ノ名異ナレドモ其ノ實ハ同シ本邦

中ニ就キ
テハ小轉
接ナリ
而ルニハ
大轉接ナ
リ

小轉法

大轉法

ノ無比ノ帝國タルハ世界耳アルモノ、皆聞キ知ル所ナリ

一頭多脚法

飲料

人ノ飲料ニ供スルモノニハ水アリ乳アリ茶アリ酒アリ咖啡ア
リ中ニ就キテ要用テタルモノハ水ト乳トニテ酒茶咖啡之ニ次グ
而ルニ皆過飲スルトキハ下痢ヲ起スベシ

野菜

野菜ニ根ヲ食フモノアリ莖又ハ葉ヲ食フモノアリ花又ハ實
食フモノアリ其ノ中ニ就キテ最効益アルモノハ大根ナドノ如
ク根ヲ食フモノニシテ瓜茄子ナドノ如ク實ヲ食フモノ之ニ次
グサレドモ過食ハ胃ニ害アリ

文章作例 一頭多脚法

警察

警察ノ事ニ種々アリ田畑ニ關スルモノヲ田畑警察ト云ヒ山林ニ關スルモノヲ山林警察ト云ヒ溺死漂流船舶隄防等ヲ警ムルヲ水上警察ト云ヒ卑猥陋褻ノ風俗ヲ正スヲ風俗警察ト云フ警部巡查ニテ之ガ署ヲ組織シ警部長之ヲ監督ス

警部以下

水

水ノ形象ヲ成スモノ其ノ狀各同シカラズ名モ亦隨ヒテ異ナリ空氣ノ中ニ在リ冷體ニ着キ溥々ト玉ノ如キモシテ露ト云フ其ノ氷點ヨリ下レル寒ニ遇ヒテ結セルモノヲ霜ト云フ空氣ノ中ニ浮飄シ細微ノ小點トナリ近ニ在リテ濛々タルハ之ヲ霧ト稱スソノ遠ニ在リテ漠々タルヲ雲ト名ヅク雲ノ合ヒテ地ニ下ルモノヲ雨ト云フ雪ハ雲ノ氷點ヨリ下レル寒ニ遇ヒテ形ヲ成セルモノニテ霰ハ雨ノ凝レルモノナリ

露以下分

總說

比喩法

兵士

先諭後正
以下三文
以諭起
同シ比起
比喩ノ起
語ヲ繁簡
シテ繁簡
シテ繁簡
シテ繁簡

外寇ハ盜ナリ兵士ハ藩屏ナリ家ニ藩屏ナクハ盜賊妄ニ來侵シ遂ニ其ノ家財ヲ奪ハル、ノミナラズ甚シキトキハ其ノ身ヲ危クズルニ至ラン國ニ兵士ナクハ外寇肆ニ來犯シ遂ニ城地ヲ掠メラル、ノミナラズ甚シキトキハ其ノ國ヲ亡スニ至ラン兵士豈尊バザルベケンヤ

養生

家ニ連城ノ玉ヲ藏ムルトモ倉庫固カラズバ偷兒ノ奪フコトヲ防グコト能ハザルベク胸ニ蓋世ノ智ヲ抱クトモ身體健ナラズバ病魔ノ來ルヲ避クルコト能ハザルベシ故ニ智識ノ玉ヲ全クシ光ヲ天下ニ放タント欲セバ必ズ先ヅ身體ノ倉庫ヲ固クスベシ是養生ノ急務ナル所以ナリ西哲云ハク有爲ノ氣ハ強健ノ體

文章作例 比喩法

ニ宿スト學生タルモノ三省セズバアルベカラズ

元氣

夫レ虎ヲ盡クニ爪牙生ケルガ如ク斑文炳蔚宛然トシテ眞ニ逼ルトモ一ノ眼睛ヲ欠カバ活動ノ勢ヲ生ズルコト能ハザルベシ人ノ元氣ニ於キテモ亦然リ學術廣シト雖智識深シト雖才藝多シト雖唯一ノ元氣乏シケレバ向ノ數者ハ皆死物トナルベシ此ニ由リテ之ヲ觀レバ一人ノ元氣ハ一人ノ眼睛タリ一國ノ元氣ハ一國ノ眼睛タリ此ノ物アリテ身ヲ立ツベク國ヲ興スベシ豈振作セザルベケンヤ

報恩

夫レ人ヨリ金錢ヲ借リタルトキハ必ズ之ヲ返サズバアルベカラズ入ヨリ恩惠ヲ受ケタルトキハ必ズ之ニ報イズバアルベカラズ金錢ヲ借リテ返サミルハ窃盜ニ均シク恩惠ヲ蒙リテ報イザルハ背徳ノ大ナルモノナリ世ニ謂ハユル忠臣トハ善ク君ノ恩惠ニ報イタルモノヲ云ヒ孝子トハ善ク親ノ恩惠ニ報イタルモノヲ云フニ外ナラズサレバ報恩ノ事タル一日モ忘ルベカラズ

護國

國ヲ護ルハ家ヲ守ルニ同シ家守ラズバ他人ノダメニ掠奪セラレテ身ヲ置クニ處ナク終ニ奴隸トナルニ至ルベシ國ニ於キテモ亦然リ男女ヲ論ゼズ貴賤ヲ問ハズ心ヲ協セ力ヲ戮セテ之ヲ守ラズバ四千萬ノ同胞皆四方ニ離散シテ大日本帝國ノ名モナキニ至ルベシ

立志

人身ノ志ニ於ケルハ舟ノ楫ニ於ケルガ如シ楫ヲ執ルコト正シカラザルトキハ唯其ノ方向ヲ誤ルノミナラズ甚シキトキハ舟

文章作例 比喻法

正先喻後
以下二文
同シ

忽々覆リヌベシ「志ヲ持スルコト正シカラザルトキハ唯其ノ志ヲ遂グルコト能ハザルノミナラズ甚シキハ身忽々破レヌベシ」志ヲ持スルコト慎マザルベケンヤ

節義

釋義法
正反法
援引法ニ於テ以下ニ三文ノ語ヲ比セヨ

節義トハ其ノ守ルベキ所ヲ守リ如何ナル辛苦ニ遭フトテモ決シテ變ゼザルヲ云フ「人ニ節義アルハ譬ヘバ竹ニ節アルガ如シ竹モシ節ナカラニハ如何ニ正直ナリトモソノ用ヲナササルベシ」人ニシテモシ節ナカラニハ如何ナル才智アリトモ人ニ信ゼラレズシテ世ノ廢物トナリヌベシ「閑田隨筆ニ云ハクホド」ニフシナカリセバ吳行ノ直キモタノムカヒヤナカラム

豫備

先ッ數事ヲ例證シテ題目ニ入ル以下

夫レ災ノ來ルハ來ル日ニ來ルニ非ズ病ノ生ズルハ生ズル時ニ生ズルニ非ズ「人ノ世ニ在ル事ナキトキニ方リ將來ノ災ト病ト

三文此ニ同シ

ヲ慮リ豫メ之ガ備ヲセズバアルベカラズ「若シ此ノ如クセザルトキハ事ニ臨ミテ急迫ノ患ヲ免レザルベシ」諺ニ云フ三月ニ桑ヲ植エニコトヲ思ヒ六月ニ塘ヲ掘ランコトヲ思フト是蠶ヲ養フベキ時ニ至リテ始メテ桑ヲ植エザリシコトヲ悔イ早魃ニ至リテ始メテ塘ヲ穿タザリシコトヲ悔ユルヲ笑ヘルナリ戒メザルベケンヤ

小ヲ慎ムベシ

夫レ千丈ノ堤モ蟻ノ穴ヨリ潰エ五層ノ樓モ煙管ノ火ヨリ燒ケ大ナル禍モ小ナル過ヨリ起ル「故ニ過ハ小ナル折ニコソ改ムベキワザナレ其ノ大ナルニ及ビテハ如何トモナシ得ベカラズ」諺ニ油斷ハ大敵ナリト云ヘルハ是小事ノ慎ムベキヲ云ヘルナリ

獨ヲ慎ム可シ

人ノ見テ嘲ルコトハ見ザル所ヨリ生シ人ノ聞キテ罵ルコトハ

文章作例 比喩法

聞カザル所ヨリ起リ世ニ掩フベカラザル惡ハ我ガ獨リ知ルベ
キ心ノ邪ヨリ出ヅ故ニ邪ハ人ノ見聞カズ己ノ獨リ知ル所ニ慎
ムベシ其ノ露ハル、ニ及ハミ臍ヲ噬ムトモ及ブコトナカラシ
惡事千里ヲ走ルト云ヘル諺ハ惡ノ世ニ露レヤスキヨトナ云ヘ
ルナリ

兩柱分應法

愛敬

愛トハ人ヲ憐ブナ云ヒ敬トハ人ヲ敬フナ云フ「愛ナレバ人已ニ
反クコトナク敬ナレバ人禮ヲ欠クコトナシ」今人我ニ無禮ヲ加
ヘ反目シテ謗ヲ逞クスルモノハ皆己ガ愛敬ヲ盡サマルニ由ル
然レバ此ノ二ノ者ハ人ニ接シ世ニ立ツ要事ト云ハザルベケン
ヤ

今人ノ
推開ト
ク離ル
ナナル
コトナ
下ノト
ニテ再
題ニ反
ナリル

小時ト小金ト

百千ノ金ハ一厘ノ錢ヨリ生シ十百ノ年ハ一分ノ時ヨリ成ル「一
厘ヲ除キ一分ヲ外ニシテ大金ト脩期トヲ得ベカラズ故ニ厘錢
モ輕スベカラズ寸陰モ蔑ニスベカラズ」然ルニ人大抵百千ノ大
金ハ容易ニ之ヲ費サレドモ厘錢ニ至リテハ輕々ニ之ヲ散シ
十百ノ脩期ハ初ヨリ徒過スル心ナケレドモ寸分ノ光陰ハ毫モ
之ヲ顧ミズ「嘆クベキカナ

親ト師ト

親ニ養育セラレタル恩ハ琵琶ノ湖ヨリモ深ク師ニ教育セラレ
タル惠ハ富士ノ山ヨリモ高シ「故ニ子タルモノハ一日モ親ノ恩
ヲ忘ルベカラズ弟子タルモノハ片時モ師ノ惠ヲ忘ルベカラズ」
子タルモノ弟子タルモノニシテ此ノ恩惠ヲ忘レナバ世人ニ鄙
マレテ生涯身ヲ立ツルコト能ハザルベシ「戒メデヤハアルベキ

文章作例 兩柱分應法

忠 孝

古ヨリ云
云推開法
ナリ忠孝
ノ語合

善ク君ニ事ヘマツルヲ忠ト云ヒ善ク親ニ事フルヲ孝ト云フ臣民忠ナレバ國運以テ隆ニ子女孝ナレバ家道以テ興ル古ヨリ亡國敗家ノ踵ヲ接スルモノハ忠孝ノ道地ヲ掃フニ由ラザルコトナシ此ニ由リテ之ヲ觀レバ此ノ二者ハ豈國家ヲ保持スル大道ト云ハザルベケンヤ

勤 儉

力ヲ職業ニ用ヒテ毫モ怠惰セザルヲ勤ト云ヒ財ヲ有用ニ供シ少シモ浪費セザルヲ儉ト云フ人々勤ナルトキハ如何ナル難事大業ナリトモ必ズ成就シ儉ナルトキハ如何ナル貧家究慮ナリトモ必ズ繁榮セン抑世人ノ道ヲ失ヒ徳ヲ敗ルモノハ概ネ衣食ノ欠乏スルニ由レリ此ノ二者ハ身ヲ立テ家ヲ保ツ要務ト云ハズバアルベカラズ

抑云
推開

文 武

政教ヲ布キテ大平ヲ致スモノハ國ノ文ナリ兵衆ヲ帥井テ大亂ヲ靖スルモノハ國ノ武ナリ族ヲ愛シ家ヲ安ズルモノハ家ノ文ナリ惡ヲ懲シ非ヲ禁ズルハ家ノ武ナリ文ニシテ武ヲ遺スストキハ其ノ文以テ文タルベカラズ武ニシテ文ヲ遺ストキハ其ノ武以テ武タルベカラズ文弱ニ流レズ猛烈ニ偏セズシテ完全ノ國家ト謂フベキナリ

人道ト物理ト

學校ノ教タル其ノ貴ブ所ノモノハ何ゾヤ吾人國民ノ道是ナリ其ノ貴ブ所ノモノハ何ゾヤ西國究理ノ學是ナリ蓋國民ノ道明ナラザルトキハ一身ヲ立テ國民ノ義務ヲ盡スコト能ハズ究理ノ學精カラザルトキハ知識ヲ進メ外邦ト對峙スルコト能ハズ二者須テ始メテ忠實有用ノ人タルコトヲ得ン是方今學ヲ爲ズ

文章作例 兩柱分應法

モノ、片時モ忘ルベカラザル所ナリ

信義

信トハ言語ノ心事ニ違ハザルヲ云ヒ義トハ處理ノ宜ヲ失ハザルヲ云フ「信ナルトキハ衆人我ニ服シ義ナルトキハ萬事敗ヲ招グコトナシ」今人ノ身ヲ世ニ立ツルコト能ハザルモノヲ見ルニ多ク信義ノ立タザルニ由ル信義ノ要タル豈大ナラズヤ

開合ヲ看

累進法

果實

學問ハ智ヲ研キテ身ヲ立ツル所以ナリ「智暗ケレバ人類ノ道ヲ明ニスルコト能ハズ人類ノ道ヲ明ニセザレバ躬ノ行ヒニ過チ多シ躬ノ行ヒニ過チ多ケレバ此ノ世ニ幸福ヲ得ルコト能ハズ」學問ノ事タル豈忽ニスベケンヤ

首尾相應
ノ處ヲ觀

以下二文
首尾相應
セズ

果實

果實ノ多カラシコトヲ欲セバ蟲ノ害ヲ防グベシ「蟲ノ害ヲ防グント欲セバ鳥類ノ増殖ヲ圖ルベシ」鳥類ノ増殖ヲ欲セバ多ク巢ヲ營マシムベシ「多ク巢ヲ營マシムル方法ハ其ノ巢クウ時ニ方リ鳥類ヲ捕ヘザルニ在リ」

殖産

國ヲ富マサント欲セバ殖産興業ノ道ヲ明ナラシムベシ「殖産興業ノ道ヲ明ナラシメント欲セバ實業教育ヲ隆益ナラシムベシ」實業教育ヲ隆盛ナラシメント欲セバ國民ヲシテ其ノ必要ヲ知ラシムベシ「其ノ必要ヲ知ラシムル道ハ教育ヲ普及シテ國民ノ見聞ヲ博ムルニ在リ」

此ノ如キ
文ヲ成ル
ニ精細ノ
觀察ヲ爲
スルコト
鎖比例ニ
於ケルカ
如クスベ
シ

條陳法

山ノ利

先ツ總へ
テ後ニ數
フ

山ノ効益ヲ世ニ與フルコト少カラズ曰ハク夏ノ日雲ヲ合セ雨
ヲ降ラス曰ハク水ヲ貯ヘテ河流ノ源ヲ成ス曰ハク土地ノ表面
ヲ増シテ植物ヲ生ズルコト多カラシム曰ハク寒風ヲ防ギテ近
隣ノ村邑ヲ庇フ曰ハク低キ地層ヲ起シテ礦物ヲ採リ易カラシ
ム曰ハク疆界ヲ成シテ人民ヲシテ團結シ易カラシム

食物ノ四質

以下四文
相比シテ
語ノ繁簡
ヲ觀ヨ

食物ノ質ニ要スルモノ四ツ肉素ナリ脂肪ナリ澱粉ナリ金石ナ
リ肉素ハ多ク窒素ヲ含ミ動物ノ體機ノ經營ニ於テ普ク効アル
モノナリ脂肪ハ動植ヨリ生シ筋肉神經ノ組織ヲ爲シ又多ク水
炭二素ヲ含ムヲ以テ體温ヲ生ズルモノナリ澱粉ハ多ク植物ヨ
リ生シ常食ノ多分ヲ占ム金石ハ即食鹽水等ニシテ食物ヲ消化

スルニ欠クベカラザルモノナリ

地球ノ圓ナルヲ論ズ

以下四文
例字ニ注
意セヨ

地球ハ圓シ何トナレバ其ノ影月ニ映ズルモノハ必ズ圓形ヲ成
セリコレソノ一證ナリ地上日光ヲ受クルコト悉其ノ時ヲ同ウ
セズコレソノ二證ナリ大洋ヲ直行スルトキハ必ズ其ノ舊ニ復
ル是レ其ノ三證ナリ高山ニ上リ大洋ニ航シ四方ヲ望ムニ眼ニ
入ルモノハ必ズ圓形ナラザルハナシ是レ其ノ四證ナリ海岸ニ
立テテ征帆ヲ望ムニ先ヅ隠ルモノハ舟ニシテ之ニ次グモノ
ハ帆ナリ豈水面ノ不平ナルニ由ルニ非ズヤ是レ其ノ五證ナリ
此ノ五證アリ誰カ復之ヲ圓ナラズトイフモノアラシヤ

心ハ腦ノ作用ナルコトヲ説ク

心ハ腦ノ作用ナリ今太々精神ヲ勞スルトキハ痛ヲ腦ニ覺ユ其
ノ證一ツ腦病ニ罹ルトキハ心ノ作用平日ト相異ナリ其ノ證二

反筆ヲ以
テ收ム

語氣ノ強
弱ヲ觀ヨ

文章作例 條陳法

複語法

ツ心ヲ勞スルコト甚シキトキハ尿ニ燐ヲ含ムコト多シ其ノ證
三ツ凡ソ動物腦大ナルモノハ其ノ心鋭ク小ナルモノハ心鈍シ
其證四ツ腦ヲ抉去スルトキハ心ノ作用ヲ失フ其ノ證五ツ故ニ
曰ク心ハ腦ノ作用ナリト

方言

方言ハ一地方ニ局リ廣ク他方ニ通ゼザルモノタリ故ニ之ヲ改
メズバアルベカラズ今人ノ他方ニ旅行スルニ方言ヲ用フルト
キハ用ヲ辨ゼズ其ノ改ムベキ一ナリ商賈ノ他方ノ人ト貿易ス
ルニ方リ方言ヲ用フルトキハ亦事ニ害アリ其ノ改ムベキ二ナ
リ人ト交ハルニ言語野鄙ナルトキハ人ニ賤メラル其ノ改ムベ
キ三ナリ其ノ他方言ヲ用フル不便枚舉スルニ違アラズ是レ方
言ヲ改メズバアルベカラザル所以ナリ

雪月花

正筆ヲ以
テ收ム

先ツ分ケ
テ後ニ之
ヲ總テ

總收

雪ノ景ナ
リ何等ノ
快絶ソ共
ニ逆説フ
ニ用フ此
試ニ此ノ
文章ヲ敷
衍セヨ

上下一色皚々トシテ銀世界ヲ成シ眼中一點ノ塵ナク人ニ超然
トシテ濁世ヲ脱スル情ヲ催サシムルハ雪ノ景ナリ氣ハ澄ミ天
ハ朗ニ皎々トシテ一大鏡ヲ懸ケ見ルトシテ清光ナラザルハナ
ク人ニ洒然トシテ輕風ニ御スル想アラシムルハ月ノ觀ナリ蝶
ハ眠リ鳥ハ歌ヒ爛熳トシテ四ニ錦繡ヲ布キ香風嫋々トシテ人
ノ衣袂ヲ拂ヒ人ニ悠然トシテ閑雅ノ致アラシムルハ花ノ景ナ
リ宜ナルカナ世人ガ四時ノ景ヲ談ズル毎ニ先ヅ指テ雪月花ニ
屈ムルコトハ

看花ノ四絶

朝暎東ニ昇リ露光的礫トシテ萬花活キントス何等ノ快絶ゾ夕
陽始メテ没シ煙霧杳然獨明月ヲ伴ヒテ花影ヲ踏ム四顧一人ナ
シ何等ノ悄絶ゾ夜雨漸ク収リ紅雲濕垂林下寂寞トシテ唯鳥聲
ヲ聞ク何等ノ幽絶ゾ東風一陣驚然トシテ來レバ花片雨ノ如ク

文章作例 條陳法

一語總收

續紛トシテ面ヲ撲ツ何等ノ奇絶ゾ此ヲ看花ハ四絶ト云フ

一一三

附 錄

(一)俗 字 (正) (計四十字)

功(功)	雄(雄)	沿(沿)	逢(逢)	兎(兎)	舊(舊)	疑(疑)	蕨(蕨)
畚(圖)	堤(隄)	灰(灰)	回(回)	高(高)	堯(堯)	流(流)	弘(弘)
凡(凡)	黍(黍)	与(與)	断(斷)	老(老)	養(養)	凍(凍)	夢(夢)
着(著)	數(數)	義(義)	歲(歲)	弊(弊)	祭(祭)	藝(藝)	派(派)
掛(挂)	館(館)	夏(夏)	富(富)	學(學)	益(益)	栢(栢)	直(直)

右ノ如キ俗字ハ元ト誤レルモノナレハ一切用フベカラズト説クモノアリ然レトモ字畫ノ事タル畢竟人爲ノ約束ニ出テハ一定ノ法格ナキモノナレハ廣ク世人ニ通シテ事ニ害ヲ生セザルモノハ使用スベキカ

(二)省 文 (計八十字)

省文トハ畫ヲ省畧シタル文字ヲ云フ本ト細書ノ用ナリ小學校令第三表ニモ略字ニテ廣ク通用セルモノハ之ヲ使用スルモ妨ナシトアリ細字ヲ

附 錄

一一三

出復讀句刺卒培食攘害說乞率

シユツ | デル | ス井 | イダス
 フ | マタ | フク | カヘス | カヘル
 トク | ヨム | トー | ヨミキリ
 ク | コトバノトマリ | コー | マガル
 シ | コロス | ツシル | セキ | ハリ | サス
 ツツ | ニワカ | シタガウ | シユツ | ナハル
 ハイ | ツチカフ | ホー | ツカ
 シ | クヒモノ | ヤシナフ | シヨク | クラフ
 シヨ | カ、ク | ツー | ススム
 ガイ | コロス | ソコナフ | カツ | イツクンヅ
 セツトク | エツ | ヨロコブ | セイ | 言語ヲモテ人ヲ論スルナリ
 キツ | コツ | カフ | キアタフ
 ソツ | シタガフ | ヒキユ | オホムチ | リツ | 一分

責作適畜咽乾暴辟質啞離塞伯附錄

ヒ | カサル | ホン | オホヒナリ
 サク | オコル | ツクル | サ | ナス
 テキ | カナフ | セキ | シツガフ | セム
 ナク | ケタモノ | キク | カフ
 イン | ノンド | エツ | ムセブ
 ケン | イス井 | カン | カハク
 ポー | ニワカ | ハク | サラス
 ヒ | サル | タトフ | ヘキ | ツミ | メス | ヨコシマ
 シツ | スガタ | シ | ニエ
 ア | ドモリ | オシ | アク | ワラフ
 リ | ハナル、 | レイ | ツク
 ソク | フサガル | ミツル | サイ | ヘダツル
 ハク | コノカミ | ハ | 一王

殷 相 識 賈 粥 齊 見 差 從 稟 大 還 單

イン 世ノ名 アシ アカシ
 シヨ一 タスク ソ一 ミル スガタ
 シキ トムル シ シルス
 コ アキヒト カ アタヒ
 シユク カユ イク ヒサク
 セイ ト、ナフ ヒトシ サイ モノイミ ツ、シム シ モスツ
 ケン ミル ゲン アラハル
 サ一 タガフ シ カタカヒ
 シヨ一 ユルヤカ シユ一 シタガフ
 リン クラマイ ヒン ウクル
 タイ ハナハダ ダイ オホヒナリ
 セン メクル クワン カヘル
 ゼン オホヒナリ タン ヒトへ
 睭^ニキ^ミル スキ 川ノ名

植 直 厭 假 約 切

ナ タツ シヨク ウ、ル
 ナ アタル ナヨク スク
 アツ オス エン イトフ
 カリ イタル カ カル
 ヨ一 要ト通ス ヤク ツ、マヤカ
 サイ 大凡 セツ キル

(四)類似ノ字 (凡二百三十八字)

陝	ケウ	セバシ	陝	セン	地ノ名	穀	コク	アハ	穀	コク	コウツ
幹	カン	ツカサドル	幹	アツ	マリス	壺	コ	ツホ	壺	コン	ミナ
朽	キウ	ケツ	朽	ナ	ヌル	屈	カイ	イタス	屈	テン	アナ
疆	キヨウ	ツトム	疆	キヨ一	サカヒ	管	クワン	クダ	管	カン	スケ
刺	シ	ツシル	刺	ラツ	モトル	修	シユ一	チサム	脩	シユ一	ナガシ
筆	ヒツ	フデ	筆	イツ	シキ ^ン ハナ	奕	エキ	サカン	奕	エキ	バクエキ

附 録

葦	シ	ン	キノコ	篋	タン	タケムシロ	純	ヲ	ユン	モツバラ	鈍	ドン	ニ	フ	シ			
徑	ケ	イ	コミチ	經	ケ	フ	揚	ヨ	ー	ア	ク	楊	ヨ	ー	ヤ	ナ	キ	
陽	ヨ	ー	ヒ	湯	ト	ユ	綱	コ	ー	ツ	ナ	綱	モ	ー	ア	ミ		
損	ソ	ン	ソコナフ	隕	井	ン	糶	テ	ウ			糶	テ	キ	カ	ヒ	ヨ	ネ
矢	ワ		ナカフ	失	シ	ツ	師	シ		イ	ク	帥	ス	井	ヒ	キ	井	
楫	シ	ユ	ー	楫	ユ	ー	免	メ	ン	マ	ヌ	兔	ト		ウ	サ	ギ	
投	ト	ー	ナク	股	コ		凸	ト	ツ	ナ	カ	凹	オ	ー	ナ	カ	ヒ	ク
淡	タ	ン	アワシ	談	ダ	ン	僅	キ	ン	ワ	ツ	謹	キ	ン	ソ	、	シ	ム
誇	コ		ホコル	跨	コ		沃	ヨ	ク	コ	ユ	妖	ヨ	ー	ア	ヤ	シ	
舉	キ	ヨ	ア	ク	譽	ヨ	杪	シ	ヨ	ー	フ	抄	シ	ヨ	ー	サ	ル	
梁	リ	ヨ	ー	梁	リ	ヨ	椽	テ	ン	タル	キ	椽	エ	ン	タ	ス	ク	
辨	ベ	ン	ワ	カ	ツ		班	ハ	ン	ワ	カ	斑	ハ	ン	マ	ダ	ラ	
弊	ヘ	イ	ヤ	ブル	弊	ヘ	爪	ソ	ー	ツ	メ	瓜	ク	ワ	ウ	リ		

校	コ	ー	マ	ナ	ビ	ヤ	校	コ	ー	カ	ン	カ	陣	ヂ	ン	ツ	ラ	ナル	陳	チ	ン	ノ	フ			
却	キ	ヤ	ク	シ	リ	ソ	却	キ	ヨ	ー	オ	ビ	カ	塾	シ	ク	マ	ナ	ビ	ヤ	塾	テ	ン	昏		
路	ロ		マ	ヒ	ナ	フ	路	ロ		ミ	チ	薄	ハ	ク	ウ	ス	シ	簿	ホ		エ	ビ	ラ			
杯	ハ	イ	サ	カ	ツ	キ	杯	ホ	ー	ツ	カ	背	ハ	イ	ソ	ム	ク	脊	セ	キ	セ	ホ	ネ			
侍	シ		タ	ノ	ム		持	ツ		モ	ツ	貫	ク	ワ	ン	ツ	ラ	ヌ	ク	貫	シ	ヤ	ユ	ル	ス	
場	エ	キ	サ	カ	ヒ		場	ヂ	ヨ	ー	ニ	沂	キ		カ	ハ	ノ	名	沂	ソ		サ	カ	ノ	ホ	ル
盲	モ	ー	メ	シ	ヒ		育	イ	ク		ソ	商	テ	キ	モ	ト		商	シ	ヨ	ー	ウ	ル			
纂	サ	ン	ウ	ハ	フ		纂	サ	ン		ア	刀	チ	ヨ	ー	ナ	リ	モ	ノ	刀	ト	ー	カ	タ	ナ	
嗅	メ	イ	ク	テ	シ		嗅	メ			メ	誤	コ		ア	ヤ	マ	ル	悞	ゴ		マ	ド	フ		
桓	ク	ワ	ン	タ	ケ	シ	恒	コ	ー		ツ	双	シ	ン	ヤ	イ	バ		办	ソ	ー	キ	ズ			
晏	ア	ン	オ	ソ	シ		宴	エ	ン		ヤ	毫	ゴ	ー	ケ			毫	ハ	ク		地	ノ	名		
樽	ソ	ン	タル				樽	ソ	ン		オ	朕	チ	ン	ワ	レ		朕	チ	ン		キ	ザ	ン		
清	セ	イ	キ	ヨ	シ		清	セ	イ		ス	榮	エ	イ	サ	カ	エ	榮	ケ	イ		カ	ハ	ノ	名	

玉	タマ	玉	タマシ	効	シルシ	効	ナラフ
段	キダ	段	カリ	糜	タダル	糜	ツナク
母	ハハ	母	ナシ	奈	ナシ	奈	イカン
冷	キヨシ	冷	ヒヤヤカ	却	シリツク	郟	ヒマ
傳	ツク	傳	ツタフ	搏	ウツ	搏	トラフ
贏	アマル	贏	ツカル	閣	カト	閣	タカドノ
貪	ムサボル	貧	マツシ	枚	ヒラ	牧	マキ
冠	カンムリ	冠	アダ	邵	人ノ姓	邵	タカシ
汗	ケガレ	汗	アセ	臣	オミ	巨	オホイナリ
偏	カタヨル	偏	アマネン	苑	ソノ	花	ハナ
宣	ノブ	宜	ヨロシ	官	ツカサ	宮	ミヤ
飲	カタムク	敬	ナ、メ	本	モト	本	ワシル
粟	メ	粟	カウヂ	拆	ヒラク	拆	ウチキ

折	ナル	已	ヤム	已	ミ	己	オノレ
穴	アナ	宄	アマル	宄	カタマル	戊	ツチノエ
戌	イヌ	戌	マモル	盡	ツクス	畫	カキル
畫	セル	椀	マリ	碗	イシマリ	腕	ウヂ
禪	シツカ	憚	ハバカル	禪	ヒトヘ	技	ワザ
枝	エダ	伎	ワザ	殉	トナフ	洵	ツ、シム
胸	ムネ	洵	ワク	陶	タノシム	觸	フル
獨	サレヨウベ	獨	ヒトリ	蠟	ムシ	滔	ハヒコル
陷	オチイル	蹈	フミ	詔	ヘツラフ	瞳	ヒトミ
鐘	カチ	撞	ツク	鍾	サカヅキ	活	イク
括	ク、ル	話	カタル	住	スム	往	ユク
任	マカス	崇	タフトフ	崇	タ、リ	刊	キル
刊	ケツル						

類似ノ文字ノ誤リ易キハ兒童ニ止ラズ大人モ間々免レズサレバ教師タルモノ生徒ノ學力ニ應シ教授ノ機會ヲ見テ之ヲ提出シ辨別力ヲ養成スルハ始終忽ニスベカラズ因リテ今其一例ヲ舉ク他ハ推シテ知ルベシ

(五)異体同義ノ字 (凡二十四字)

尔爾 弥彌 馱馱 灾災 輩輩 函畫 席廟 号號 韵韻
岩巖 岳嶽 埜野 冈岡 弃棄

此等ハ孰レヲ記スモ同シコトナレバ可成字畫少キモノヲ常用トスルヲ便利トス

(六)同訓異義ノ字 (計百六十二字)

凡ソ漢字ハ一トシテ此類ナラザルハナシ之ヲ詳ニスルモノ譯文筌蹄譯文須知 虛字詳解 實字解 助語審象 訓譯示蒙等ノ書校舉スルコト邊アラズ所謂助語中ノ歇語襯語ハ假字ヲ用フルコト多キヲ以テ虛字ニ比シテ其辨別ノ用少キモ虛字ニ至リテハ左ノ文字ヲ混用スルガ如キハ杜撰極リスイカテカ文ヲ成スベキ因リテ一二ヲ列記シ讀者ノ猛省ヲ促

スト云フ

日謂	寢寢	貼腫	初始	例縱	趨走	利敏	置於	仕事
效習	向迎	窮候	前勸	周轉	敢肯	又亦	善能	
固賤	至到	醒寤	見視	形狀	變代	泣鳴	去距	連列
例斃	伸述	勉務	言事	物者	中抵	柴芝	安易	避裂
成爲	所處	張晴	暖熱	難固	執取	射入	聞聽	疾利
粗荒	思想	善好	吞飯	脆和	純擅	異特	合遭	攝兼
正匡	布若	移寫	贈送	依由	最尤	譬例	運繞	堪絕
既已	善能	處所	以持用	順治隨	臨望蒞	収納治	視	
見觀	揚上舉	協稱適	亞續次	因賴倚	非不有不在	或		
在。有。								

(七)和字 (計二十七字)

辻	ツジ(薮)	峠	タフゲ(嶺)	扱	サテ(然)	働	ハタラク(働)	榊	カキ(龍眼木)
柚	ソウ	鴉	ヒハ(金翅鳥)	鰯	イワシ(海鱈)	鮭	ホラ(鱈)	鱈	タラ(大口魚)
栢	スキ(杉)	桤	モミチ(紅葉)	躰	シツケ(容儀)	適	アハレ	軫	セガレ(賤息)
紉	モミ	糲	カウザ(麴)	込	コム(入)	聽	ヤカタ	駝	シカケ
鑊	ヤリ(鎗)	鋳	カスガイ	迎	トテモ	躰	ウツケ	鰓	ネラフ
島	ハマケ	鯖	サバ						

(八)誤訓ノ文字 左正右誤 (計二十三字)

甲	カブト ヨロヒ	胄	ヨロヒ カブト	猪	井ノコシ 井ノコ	鴨	カモ アヒル	觸	フル(布) 突	勻	ニホフ ヒトシ	完	マツタシ
梶	カザ コズエ	轡	クツツ タツナ	灘	ナダ(大洋) 瀬	儲	サテ サケ	芝	柴シバ 草	藪	林叢ヤア澤 ニ草木アリ	森	林叢ノ稱 木多キ貌
倩	ツラフ ヤトフ	椿	ツバキ山茶 桐ノ因	杜	モリ 赤棠	菽	ハキ 藭	薄	ス、キ 草叢	俵	タラ 散ナリ	款冬	ヤマアキ フキ
杯	十 スグフ												

(九)同音相通ノ文字 (十二字)

說悅	ヨロコフ
御馭	ヒキユ
如而	テ
以已	ハナハタ
亡無	ナシ
由猶	ゴトシ

(十)文章正誤法

普通文ハ國文ヲ經トシ漢語ヲ緯トシ語勢ノ緩急時間ノ先後等ヲ精密ニ寫シ出スベキモノナルニ從來漢文譯讀ノ杜撰ナリキト國文ノ法則ノ世ニ明ナラザリキトニ由リ其誤頗多カリ今其著キモノヲ取リテ左ニ列記シ一々之カ理由ヲ説キツ讀者宜シク其餘ニ推シ及ホシテ速ニ其弊ヲ除カンコトヲ務

第一 辭ノ餘レルモノ

一、規則ヲ改正スルノ議、ノノ字餘レリ何トナレバ改正スルハ
 佐行三段活ノ連體言ニシテ議ハ體言ナレバ其間ニ他ノ詞ヲ用
 ヒテ接スル要ナケレバナリ但上語ニコトト云フ詞ヲ省キタル
 モノハノノ字ヲ用フ進步スルノ早キノ如シ花ヲ觀ルノ記人ヲ
 誘フノ文等皆此ノ誤ナリ是レ漢文ノ初學入徳之門也ナトニ
 ナソヘテ讀ミシニ本ツケルナラン

二、書ヲ看セシム、セノ字贅ナリ、シムハスベテ將然言ニ添ハ
 ル辭ナルニ看ハ即チ將然言ナレバナリ佐行三段活ノモノニハ
 セシムト云フヨリ誤リ用ヒシナランカ即出頭セシム欠席セシ
 ムノ如シ是佐行三段活ノ將然段ナルニ由ルサレバ若シ看ヲ體
 言トスルトキハセノ字ナソフトモ誤ニ非ズ月見セシムノ如シ

入學スルコトヲ得セシムノ語ハ誤ナレドモ校長心得セシムノ

語ノ正シキモ此ノ理ナリ

三、聲ヲ聽ケヨ、ヨノ字贅、四段活ノ詞ハ其最下ノ段ハ直ニ命

令ノ語トナルナリ舞ヘヨ歌ヘヨ等ノ四段活ニヨソヒタルハ

感歎詞ト知ルベシ犬ヲ打テヨ炭ヲ増セヨ餅ヲ食ヘヨ等ノヨ皆

此ヲ以テ推スベシ

四、然レハ則チ、則ノ字不必用ナリ則チ譯スレハハトナル故ニ

則ノ意味ハ已ニ十分ニ然レハノ内ニ含メルナリ君子ハ則チ然

ラスノ類モ然リ皆漢文ヲ讀ムニ一字ヲ遺サマラントテ起セル

誤ナリ

五、其害ハ甚シ矣、漢文ニ置字アルハ本和語ニ之ヲ譯スベキモ

ノナキヨリ起レリ矣ノ字ノ如キハキケリケン、カラン等處ニ隨

ヒテ種々ニ譯スベキモ普通ノ譯ヲ見出スコト難キカ故ニ古來

カクナシ、ナリ況ンヤ國語ニ置字アルハアルベカラザル理ナルヲヤ請フ諒セヨ焉ノ如キモ同一ノ誤ナリ
 六、之ヲ讀ミテ以テ書ス 以テノ字除クベシ蓋以ノ字ニ輕重ノ
 二様アリテ輕キモノハ邦語ニ譯スルトキハテトナル故ニテト
 以テトアレハ重語トナルナリ甚シクシテ而シテ救フベカラズ
 ノ而シテノ除クベキモ然リ

第二 辭ノ足ラヌモノ

一教育ト國家ノ關係 國家ノ下ニトノ字ヲ入ルベシ語ヲ列舉
 スルトキ幾個ニテモ連用スベシ漢文ニ兄與弟ト讀ムベキヲ兄
 與弟ノ讀ミタルヨリ生セル誤ナリ晴ト雨ヲ論セス大ト小ノ別
 ナクノ類皆然リ

二血戰十六合 血戰ノ下ニスルコトノ送りカナチソフベシ然

ラザレバ全ク動詞ノ形ヲ失フナリスルノカナチソフレハ佐行

三段活トナル追擊甚シノ類モコレニ同シ

三欣然出迎フ 欣然ノ下ニトシテノ送りカナチソフベシ然ラ

ザレハ副詞ノ形ヲ失ヒテ名詞トナルナリ

四感激措クコト能ハズ 感激ノ下ニシテナソフベシ感激ハ佐

行三段ノ動詞ナリ

五小兒ヲ遊ハス人 遊ハスルトアルベシ遊ハスハ終止言ナレ

ハ連體言ニ正スベシ歌ヲ唱フ人彼ニ任スカ如キ幸之ニ過クモ
 ノアラズナト云フ語ハ皆此誤ナリ

六外史氏ノ曰ク 曰ハクトアルベシハクハフノ延音ニシテフ

ハ波行活用ナレバナリ謂ラク思ラクナトモ同一ノ誤ナリ共ニ
 ラクハルノ延音ナレハヘラダトアルベシ

七卒ヘリ 卒ヘタリトアレ下二段活用ニタリ(テアリ)ノ添ハル

ベキ續用段ヨリスルナリ然ルニ四段活用ニ似タルヲ以テカクハ誤リツルナリ止メリ受ケリ載セリ飢エリ捨テリノ類此ニ準シテ知レ

八、運動サス 運動セサストアルベシ射サス起キサス受ケサス來サス等ノ用法ヲ佐行變格ニ及ホセルガ將然ヲ受クルモノナレバ其セテ脱スルハ不可ナリサセハ一段二段加行變格左行變格ノ將然言ノミ轉シ名詞ヨリハ轉セザルナリ

第三 首尾ノ整ハザルモノ

一、倍舊ノ御厚情ヲ加ヘラレシコトヲ 此レヲノ字ヲ受クル語ヲ欠ケルナリ願ハクハ請フ等ノ語ヲ倍舊ノ上ニ置クベシ下ニトハノ語アリテ上ニ豈圖ランヤ思ヒキヤ等ノ語ヲキモコノ類ナリ

二、願ハクハ更ニ五日ノ延期ヲ得タシ タシハ希望ヲ表ハス語

ナルニ上ニ願ハクハノ語アレハ重複トナル得シコトヲトアルベシ

三、好キコソ物ノ上手ナリ 上ニコソノ係詞アルトキハ此ニ應シテ已然言ニテ結フベキニナリハ終止言ナレバナレト改ムベシ

四、勉強スルゾ書生ノ本分ナリ ズノ係詞アルトキハ之ニ應シテ連體言ニテ結フヲ法トス然ルニナリハ終止言ナレバナルトアルベシゾノ字ナントアリヤトアリカトアルモ結此ニ倣ヘ

但此二項ニ就キテ心得ベキコトアリソハ含蓄語ノコトナリ例ヘハコレゾ學校ノ始我コソ源氏ノ大將トアルカ如キハ始ナル大將ナレノナルナレヲ含蓄セシモノニテ固ヨリ正當ノ語ト知ルベシ

第四 自他ノ分ダサルモノ

一、賊入りテ金ヲ盜マレタリ。盜ミタリトアルベシ何トナレハ入リハ賊自身ノ動作ヲ表ス語ナレトモ盜マレハ人家カ他ニ然セラレタルヲ表ス語ナレバナリ但盜ノ上ニ人家ノ二字ヲ略シタルモノトズルトキハ妨ナシ

二、明朝某氏我カ家ニ來ル約アリ。來ルハ某氏自身ヨリ云フ語ナリ來ラル、他人ヨリ之ヲ云フトキハ來ラル、トアルベシ又他人ヲ尊敬スル方ヨリ云フモ然スルヲ可トス

三、校丁ニ命シテ掃除ス。掃除セシムトアレ掃除スハ自身動作ズル語ナリ然ルニ校丁ニ命シテノ語上ニアレバ他人カ校丁ヲ使役シテ動作ヲ作サシムルコト明ナリ故ニ役働詞ヲ用フルナリ

第五 時間ヲ分タサルモノ

一之ヲ記セハ便ナラン。下ノナランハ未來言ナレハ上ノ記セ

ハノ已然言ヲ將然言ニ改メ記サハトスベシ多少減スルハ免レザルベシ君ハ往ケトモ余ハ往カシ後日影響ヲ及ホスコト少カラザルベシノ類ハイツレモ減ゼンハ往タトモ及ホサンコトトアルベシ咲カハ美シナトノ如ク上未定ニシテ下既定ナルハ畧文ナレハ害ナケレトモ下未定ナルハ必ス上ヲモ未定トセズハアルベカラズ

二、他日社會ヲ益スルコト少カラス。他日ノ二字上ニ冠スレハ未來ヲ想像スル語ナリ益センコト少カラザルベシトアルベシ古ノ學者ハ必師アリキ明日雨降ランノ如ク上ニ冠スル語ヲ見テ下ナシテ之ニ應セシムベシ假ヘ堪ヘ得ルトスルモナト、云フモ此ヲ以テ推サハ得ベシノ誤ナルコトヲ知ラン

第六 同訓ニテ誤レルモノ

一、此ノ限ニアラズ。此ノ限ニ非ズ。共ニ非ナリ在ラズトアレ

第一有ハ何々カ有ルト云フ場合ニ用フ第二非ズハ何々デナイト云ヒテ打テ消ス場合ニ用フ例ヘハ此レ人ニ非ズト云フトキハ人ニ非ズシテ禽獸カ木石カト云フコトニナルナリ在ラズハ其場ニ入り居ラヌト云フコトニテ例ヘハ病人三時マテ診察スベシ但急病ハ此ノ限ニ在ラズト云フトキハ急病ハ三時マテト云フ本條ノ範圍ノ内ニハ入り居ラヌト云フ意ナリ猶疑アラバ左ノ諸語ヲ比シテ味フベシ

日ハ東ニ在ラズ南ニ在リ 日ハ東ニ非ズ是レ星ナリ

鳥ハ樹ニ在ラス屋ニ在リ 鳥ハ樹ニ非ズ是レ動物ナリ

二、驥尾ニ付ス 不問ニ附ス 付ト附トチ易ヘ置ケ付ハ界ナリ授ナリト注シツケワタスコトナリ附ハ依ナリ著ナリト注シ寄り着クコトナリ故ニ驥ノ尾ニ小虫ノツクハ附ナルベクアル事ヲ不問ニ属セシムルニハ付ナルベシ

三、大刀ヲ挿ミテ 挾ミテトアレ挿ハ物ヲ兩方ノ間ヘハサムコトナリ挿花是ナリ挾ハ物ヲ兩方ヨリハサムコトナリ云ウ來リテ本會ニ望マル、壯士巡查ヲ倒ス之ニ依リテ此ヲ見レバ血流レテ河ヲ爲スノ望、倒之、依、此、見、爲、皆、此ノ類ナリ尙同訓異義ノ文字ヲ觀ヨ

第七 雜ノ誤リ

一、朝早く起キル 起クルトアレ是レ口語ト文章語トチ混シタル誤ナリ日延ヒル書集メル夏ハ瘦セル柿落ナルノ類上二段活ニ屬スル語皆此ナリ
二、判然セズ タラズトアレセシスノ三段ニ活用スル動詞ニ非ズ判然ハ副詞ニテトシテ及トナド、承クルナリタラスハ即チトアラズノ約ナルニ由リカクハ改ムルナリ半過去ノタリ即チテアリノ約トハ同シカラズ

三、義經ナルモノアリ ナリハニアリノ約リテ成レル助詞ニシテ口語ノデアルナリ故ニト云フモノトスベシコレ漢文ニ孝弟也者人也者ナトナナルモノハト誤譯セシニ始レルナラン

四、人ノ射殺スル所トナル 人ニ射殺セラルトアルベシ是レ爲人所射殺トイフ漢文ヲ誤讀セルニ起レルナリ爲ハタメニト訓シ仄字ナリナスト訓スルトキハ平字ナリ四聲ノ別ヨリ仄字ナルコト明ナル證アレハ二ノ意ナルコト知ルベシ

五、申セシ 申シ、トアルベシソハ四段活ノ續用段ニシノソハリタルモノニテ記セシノ類モ此ニ同シ坐セシ失セシ等ハ二段活ニテ其續用ハセナレバ此ナシノ字ニテ承ケタルナリ佐行三段活セシ按セシ等モセシナリト知レ

六、出勤サレタリ セラレタリノ誤ナリ佐行變格ノ將然言ハセニシテラルハ一段二段加行變格佐行變格ノ將然言ニツ、ク詞

ナリ欠席サル翻譯サル約サルベキ數ナト用フルハ皆此ノ誤ナリ

七、雨ノフルニ風タニ吹キテ 鳥サへ通ハヌ深山ダニトサヘトヲ易ヘ置クベシダニハ口語ニデモト譯シサヘハ口語ニマデト譯スダニハ少キ方ヲ舉ケテ全般ヲ知ラシメサヘハ多キ方ヲ舉ケテ一部ヲ知ラシムル助詞ナリスヲト似タレド此ハ口語ニソレト譯スソレガト事物ヲ強ク指シ抑ヘテ力ヲ添フル意ナレハ亦混ズベカラズ

八、花咲キシ 某處ニ於テ演說アリシ 共ニキニ作ルベシキン、シカト活ク助動詞ナルニ上ニゾノカ、リナケレバナリ

九、東京ニ來リ學校へ入ル ニトヘトヲ易ヘ置クベシニハ場處ヲ指示スルニ用ヒヘハ方向ヲ指示スルニ用フ又ヘハ廣クニハ狹クヘハ未來ニ係リニハ過去ニ屬スル異アリ左ノ語ヲ味ヒテ

之ヲ知シ

一四〇

船ニ乗ルベキ所へ渡ル 東國へ下ラントテ近江ニ至ル 京
へ遣ハシタル人 京ニ住メル人
十得ルト雖 經ルト雖 得ト雖 經ト雖トアルベシトハスベテ
切ル、詞ノ下ニ續クモノニテ終止言ヲ受クルモノナルヲ連體
言ニテ受クルハ誤ナリ但赤キト白キト云フカ如キ下ニ語ヲ省
ケルハ此ノ限ニ在ラズ雖ノ字曰フノ意ナキ字ナレバ得レトモ
經レトモト讀ム方最聞エ易ク最惑フコトナカラシカ
十一、有ルヤ無キヤ 有ルカ無キカノ誤ナリカハ連體言ニ續キ
ヤハ終止言ニ續ク詞ナリ學校規則改正ハ何月ナリシヤ一升五
十錢ニ賣ラバ幾何ノ利益アルヤ紀元節ハ何ノ爲ニ設ケラレタ
ル祝日ナリヤ等上ニ何ノカ、リアルトキ皆カヲ用フベシヤヲ
用フベキ處ハ其ノ下ニ否ヤノ詞ヲ添ヘテ通スルトキニ限ルト

知レ

第八 眞假ノ使ヒ方ヲ誤レルモノ

一、然レ共 トモトアレ何トナレハトモハ甚輕キモノナレバナ
リ漢文ニテ送り假字トナリ居レルモノハ凡へテ假字ヲ用フル
モノト知ルベシ未タ嘗テ卷ヲ掩ヒテ嘆ゼズバ有ラズ此ノ罪ヲ
犯ス事アレバ人ニ用ヒラル、物ハ少シノ類皆假字ニテ書クヲ
可トス
二、虎ノモノタル 物トアレソハ重ク用ヒタル詞ナレバナリ當
然ノコトナリ勉強スルニアラズノ類皆事ト非トナ用フベシ漢
字交文ハ此等ノ事ニ注意セザルモノ多ケレトモ假字ノ幾個モ
重ナリタルモノハ大ニ讀ミ難ク誤リ易キモノナレバ可成重キ
モノナ眞字トスベシ

第九 誤用ノ文字 (計二十字)

誤	弁舌	辯舌	充分	十分	誤	社界	社會
正	紀念	紀念	刺激	刺戟	正	堤攜	提挈
	演舌	演說	欠點	缺典		若年	弱年
	瑕瑾	瑕釁	白哲	白哲		抱腹	捧腹
	心經	神經	幹旋	幹旋		心切	親切
	信切	深切	注告	忠告		寒冒	感冒
	妻君	細君	鮭卵	鮭卵			

第十 誤用ノ成語 (計九個)

誤 正

辱知諸君

辱知ハ自己ノ氏名ノ上ニ書クベシ

中學生徒ノ行軍

行軍ハ軍隊ニ云フベシ

某學校練兵場

練兵ハ學生ニ用フベカラズ

紳商

紳ハ貴人ナリ豪商ト云フベシ

國內一般

一般ハ一樣ナリ同一ノ義ナリ全般ト云フゾヨキ

其他吾人ヲ他人ニ重テオキテ用ヒ派出チ一人ノ出張ニ用ヒ殉國ヲ廿七八年ノ役ニ用ヒ 天皇皇太子ニ對シ奉ラズシテ陛下殿下ノ語ヲ用フル皆誤ナリ

中等教育 作文活法 書簡文部

高賀 誠三郎 著

書簡文組立法

立意

書簡文ヲ作ルニハ其事項ニ由リテ周到ナル用意ト正當ナル感情トヲ要ス然ラズバ傲慢無禮ノ誹ヲ招キ枯淡無味ノ弊ニ陷ルヲ免レザルベシ故ニ書簡ニ臨ムキハ先ツ其人ト相對話スルカ如キ心ヲ以テセバ大ナル誤ヲ救フコトヲ得ベシ今各事項ニツキテ心得ベキコトヲ略左ニ列記ス

- 一、安否ニ關スルモノハ用意周到ニ事情ヲ細ニ盡シ殊ニ吊慰ニ關スルモノハ無用ノ言ヲ省キ簡單ニシテ眞摯ナルベシ

書簡文組立法

二、祝賀ニ關スルモノハ語氣莊ニシテ恭シク其體モ可成正式ニ近ツケンコトヲ要ス妄ニ筆ヲ弄シテ反リテ人ヲ玩弄スル嫌アルハ大ニ慎ムベキコトナリ

三、誘引ニ關スルモノハ其事柄ハ決シテ否ムベカラズ其辭氣ハ親切ニシテ情ヲ動カスモノヲ最上トス妄ニ誇大ノ語ヲ用フルガ如キハ輕浮ノ所爲ナリ傲フベカラズ

四、贈答ニ關スルモノハ文辭ヲ卑クシ挨拶ヲ恭シクシ苟ニモ傲慢不遜ノ語ヲ挾ムベカラズ

五、報知ニ關スルモノハ事實精確叙述明瞭ニシテ一點ノ疑ヲ生セサランユトヲ貴フ

六、貸借ニ關スルモノ請托ニ關スルモノ等ハ丁寧懇篤ニ其理由ヲ詳述シ其請托ヲ謝絶スル際ノ如キハ殊ニ事情ヲ盡シ他人ノ誤解ヲ招カザランコトヲ要ス

七、招聘ニ關スルモノハ誘引ニ關スルモノト同シク他ノ心ヲ動シテ必ス招聘ニ應セシメンコトヲ務ムベシ

八、照會ニ關スルモノハ報知ニ關スルモノト同シキ心得ヲ要ス

九、其他謝罪ニ關スルモノハ言辭鄭重ニシテ且ツ懇切ナルベク忠告ニ關スルモノハ赤心ヲ以テ他ヲ感ゼンコトヲ力メテ輕浮ノ語ヲ去リ謝禮ニ關スルモノハ歡喜ノ情紙上ニ溢ル、ガ如キヲ貴フ

右ニ述フル所ハ書簡ノ精神ナリ形體ハ更ニ研究セズハアルベカラズ精神ノミニシテ形體ナキモノハ裸體ヲ以テ人ニ接スルカ如シ無禮ノ甚シキモノナリ是ニ於テ形體ノ必要起リヌ

體段

書簡文ニ前文事實結尾ノ三ヲ具フ人ノ首腹脚アルカ如シ更ニ
前文ヲ分テハ起筆時候他ノ安否自ノ安否トナリ結尾ヲ分テハ
餘波ト結辭トナル悉ク之ヲ具フルモノヲ正式ト稱シ然ラザル
モノヲ畧式ト稱ス畧式ニハ左ノ七種アリ一ニ起筆時候他ノ安
否ヲ具スルモノ二ニ起筆時候ヲ具スルモノ三ニ時候他ノ安否
ヲ具フルモノ四ニ起筆他安否ヲ具フルモノ五ニ起筆ノミナル
モノ六ニ時候ノミナルモノ七ニ他ノ安否ノミナルモノ是ナリ
他ニ起筆謝禮謝罪等ヲ叙スルアリ謝罪謝禮等ヲ叙スルアリ前
文ヲ書カザルコトヲ謝シテ前文トスルアリ此等ヲ總ヘテ變式
ト稱ススベテ先方ノ人物用事ノ大小時期ノ緩急ニ由リテ正式
前文ヲ用フベキアリ畧式前文ヲ用フベキアリ變式前文ヲ用フ
ベキアリ全ク前文ヲ用ヒザルモアリ

四

用語

(一) 起筆ニ用フル辭ハ拜啓ス 寸楮謹上 郵便ニテ申シ上ク
等ハ贈文ニ用ヒ貴書ヲ拜披ス 御手紙拜見仕リヌ等ハ答文ニ
用フ

(二) 時候ニ用フル辭ハ春暖ノ節梅雨ノ候等ハ時候自身ヲ表ハ
スニ用ヒ 催シ 向ヒ 等ハ時候ノ進退ヲ表ハスニ用ヒ烈シ
ク甚シク一方ナラズ等ハ時候ノ程度ヲ表ハスニ用ヒ堪ヘカチ
凌キ難ク等ハ時候ノ身ニ感スル狀ヲ表ハスニ用ヒ仰ノ通り貴
命ノ通り等ハ答文ニ時候ヲ書キ起スニ用フ

(三) 他ノ安否ニ用フル辭ハ先方ノ人又ハ家ヲ表ハスニハ貴殿
尊兄御渾家様等アリ益達者トイフ意ヲ表ハスニハ益御壯健倍
御機嫌能ク等アリアラセラレトイフ意ヲ表ハスニハ御暮シア
ソバサレ御消光在ラセラレ等アリ之ヲ收ムルニハ賀シ奉ル伺

ヒ上ク推察仕リヌ等アリ又之ヲ起スニハ先ツノ語ヲ用フ是レ
自己ノ安否ノ上ナル次ニノ語ニ對スルナリ

(四) 自ノ安否ニ用フルニハ起筆ニ次ニ降リテ等アリ自己及自
宅ニ小生拙宅等アリ益達者ヲ表ハスハ略他ニ用フルモノト同
シ居マストイフ意ヲ表ハスニハ罷リ在リ暮シ居リ等アリ之ヲ
收ルニハ憚ナカラ御安心下サレタシ餘事ナカラ御休神ノ程願
ヒ上ク等アリ

(五) 變式前文トシテ用フル辭ハ久々御無音ニ打テ過キ申シ譯
ナシ昨夜ハ參上仕リ種々御馳走ニ相成リアリ難ク存シヌ前畧
御免下サレタシノ類ナリ

(六) 事實ヲ書キ起スニ用フル辭ハサテ等アリ事實ノ數項アル
キハサテ又尙又次ニ等ノ詞ヲ用ヒテ別ニ書キ起スナリ

(七) 餘波ニ用フル辭ハ委細ハ拜顔ノ節申シ述フベシ亂筆御推

讀願ヒ上ク等アリ

(八) 結辭ニ用フル辭ハ敬意ヲ含ムモノニ恐惶謹言頓首ス等ア
リ否ザルモノニ草々不盡不乙等アリ

(九) 宛名ニ用フル語ハ尊長ニハ苗字名殿苗字先生官位爵アル
人ニハ苗字何位殿苗字何爵殿苗字何官殿ナト、書クベシ様ノ
字ハ位ノ下ニ用フルモ官ニハ用フルコトナシ朋友ニハ苗字名
殿同様同大兄同賢臺同雅兄ナト、書クベシ父母ニ對シテハ御
兩親様御父上様御母上様ナト、書クベシ殿ハ敬ニ失キテ疎外
ニスル意アレバ用フルコト勿レ

(十) 傍書ハ尊長ノ位爵アルモノト官高キモノトニハ閣下ヲ用
ヒ然ラヌモノニハ侍史ヲ用フ朋友ニハ玉机下榻下足下等ヲ用
ヒ父母ニハ御膝下御坐下等ヲ用フ閣ハ樓閣ナリ侍史ハ左右ノ
書記ナリ共ニ直ニ指斥スル無禮ヲ避ケントテナリ又他人ニ示

スベカラザルモノニ親展ト書キ異變ナキモノニハ平信ト書キ急ヲ要スルモノニハ至急ト書ク此レ皆敬意ヲ含マズ用事ニ由リテ他人ノ注意ヲ促スニ出テタルモノニテ郵便法ニモ許サレタレハ時々ノ必要ニ從ヒ相當ノモノヲ用フベシ

十一稱呼ノ事文中自己自宅他人他家ヲ稱スルニ用フベキ語ハ前ニモ出シタレト此ニ更ニ細説セントス同輩ニハ貴君、貴兄、貴殿、足下等ヲ用フベキモ尊長ニハ先生閣下等ヲ用フベシ自己ヲ稱スルニハ朋友ニハ僕、自分、拙者、尊長ニハ私、私事、父母ニハ不肖ノ語ヲモ用フ他人ノ父母ヲ稱シテ御父母上様御老人様御兩親様子供ヲ稱シテ御子息、嬢様御長次男女様兄弟ヲ稱シテ兄姉上様弟妹御様御舍弟様妻ヲ稱シテ令閨様御内子様家族ヲ稱シテ御家内様御渾家居宅ヲ御宅貴家住所ヲ御地御町内御村方ト稱スベシ自己ノ父母ニ對シテハ御父母上様御兩親様子供ニハ其

方其許兄姉ニハ兄姉上様弟妹ニハ其方御前ナトアルベシ自己ノテ他人ニ對シテ呼ブニハ父母ニハ父母義老人事兩親事子供ニハ子供長次男女事兄弟ニハ兄姉弟妹妻ニハ愚妻家族ニハ家内皆々居宅ニハ此方私宅私方住所ニハ當所此地ナトアルベシ

諸般ノ注意

一左右ノ餘白 首ハ凡ソ三寸許ヲ存シ文字ヲ記セル所ノ直ニ外面ニ出ラザルヤウニ包ミ隱スヲ以テ度トシ奥ハ其必要ナケレバ其半ナルヲ度トス今奥ノ餘白ヲ長ク存スルモノアリ法ニ非ズ

二天地ノ餘白 天ニ五分ヲ存スレハ地ニ三分位ナルベク天ニ三分ヲ存スレハ地ニ二分位ナルベク要スルニ地ハ天ヨリ少カルベシ今天ニ少シモ存セズシテ地ニノミ寸許ノ餘白ヲ設ケ下

列ノ文字ノ整然タルヲ誇リテ文人顔ナスモノアルハ吾其ノ何
ノ故ナルヲ知ラズ

三本文ノ書キ様 文字ノ大サハ一行ニ十二三字ヲ度トスベク
行間ハ其字ノ半ニ及ベル空アルヲ要ス書體ハ固ヨリヨク草書
ヲ用ヒテ迅速ナルヲ貴ベトモ拙劣ノモノハ見ルニ堪ヘザレバ
行書ニテ書クモ可ナリ墨色ハ濃キヲ善トス薄キハ古來凶事ニ
ノミ用フ墨次ハ必ス文意ノ改マル字ニ於テスベシ仕リ致又シ
キ存セラル下サルベシ等ハ行頭ニ書カズ必ス行下ニ書キ終フ
ベク物名ヲ行下行頭ニ分寫スルコトナク御ノ字ハ行ノ下ニ書
クベカラズ是レ近古以來ノ法ナレモ必シモ一々拘ハルヲ要セ
ズ

四年月日ノ書キ様 年ハ頗ル重要ノモノノミニ書キ他ハ月日
ヲ書キ又頗ル輕キ口狀ニ近キモノハ日ノミヲ書ク其大サハ本

文ノ中字ノ三分ノ一四分ノ一位ナルベシ

五署名宛名ノ書キ様 署名ハ本文ノ中字ノ大サヲ以テ度トシ
略ニ過クベカラズ下ニ九拜頓首等ノ語ヲ用フルモ時ニ應シテ
爲スベシ本文ノ結辭ニ頓首アリテ又々名下ニ用フルガ如キ不
都合ナカラシコトヲ要ス宛名ハ殆ント署名ニ倍スル大サニテ
本文ノ大字ヨリ稍大ナルベク位置ハ年月日ヨリ稍上ニ本文ヨ
リ稍下レル處ヨリ書クベシ若宛名數人ナルトキハ年月日ニ近
キ方ヲ上トシ連名ニテ差シ遺スモノハ宛名ニ近キモノヲ上ト
ス

六尙々書 此レ本文ニ書キ盡サミリシ餘意ヲ補フカ若クハ他
ノ輕キ用向ヲ述ブルモノナリ再申再啓ナト、書キ出スヲ例ト
ス再伸ト書クモノアルハ大ナル誤ナリ字ノ大サハ年月日ノ文
字位ナルベシ

七手紙ノ卷方 男ハ左ヨリ右ノ内方ニ卷クベク女ハ右ヨリ左ノ外方ニ卷クベシ是レ陰陽ノ別ナリトハ古禮家ノ説ナレトモ是ノ如キコトハ一笑ニ附シテ可ナリ男女トモ左ヨリ右ノ内方ニ卷キ餘白ヲ以テ文字ヲ被フベシ左ヨリスルモノハ讀者ニ便ニ餘白ヲ以テ文字ヲ被ヘハ其觀モ自ラ好カルベキナリ

八封筒ノ書方 表面ニハ宛名ト自分ノ名ト双方トモ書クベシ自分ノ名ヲ裏面ニ書クハ變式ナリ宛名ハ封筒ノ表面真中ニ筆大ニ書キ住所ヲ書ク必要ノ場合ニハ右肩ニ小サク書クベシ脇付ハ平信直披御モトヘ等ノ語ヲ宛名ノ最下ノ文字及様若クハ殿ノ字ノ左側ニ書クベシ又郵便物ハ早ク分り易キヲ良トス故ヲ以テ表面ノ宿所ノ内ナル國名若クハ縣名ヲ宛名ノ上ニ線ヲ畫シタル上ニ書ク可シ裏面ノ封シ目ハ廻狀ハ勿論紹介狀ハ封セサルヲ可トス他ハ封シ目ニハ封鎖等ヲ書クカ又ハ見留印

ヲ抑スベシ

書簡文作例

安否に關するもの

附吊慰に關するもの

雨親の安否を問ふ

肅啓此間は試験にて何となく忙しきまゝ久しう御機嫌も伺ひ申さゞりき御兩親様御變りはあらせられずや不肖は常よりも達者にて勉強罷り在り試験も昨日首尾能く濟みたれば御案し下さるまじ弟共例の通り元氣にて膝下に戯れたりや竹刀二本慰にもとて昨日歸郷の某氏に托して差送りぬ右申し上げたく此の如し頓首

三月二十五日寄宿舍第三室電燈の下にて

(注意)下さるまじト下されまじトノ正否、たくとたしトノ使用法

暑中見舞の文

今年は例年よりも暑氣甚しく殊に一兩日は夜に至りても熟眠を成し得ざるほとにて御同様困却仕る併し御家内皆々様別に御かはりもあらせられずや時節柄御自愛專一の事と存し奉る暑中御伺まで草々

八月十五日午前六時朝顔の花ニツ三ツ笑へる邊にて

(注意)御かはりもあらせられすト御かはりもなくトノ正否、やトかトノ用法

寒氣見舞の文

時節柄とは申しながら天寒く地凍り爐を擁する外せん方もなし皆々様如何御暮しなさるゝか此の豚肉到來のま々少々御見舞迄に御覽に入る防寒の御用にもなりたらんには幸々甚々あなかしと

書簡文作例

(注意)幸と甚とカ、ル書法ヲ重文若クハ疊文ト云フ幸甚幸甚ト讀ムハ同ノ字ノ省文ナリ

幸甚ならんと書クト幸甚ト書クトノ別　あなハア、ト云フ嘆辭ナリ

寒中見舞の返事

御申し越しの通り寒氣烈しく困り入るなりさて是より御伺ひ申すべく存じ居りしに却りて御見舞にあつかりしぞかたじけなき御親切の賜やがて明朝某山雪見の下物に充つへし何れ參堂の上萬御禮申し上くべし恐惶

(注意)御申し越しト御申越されトノ別

申すべく存じト申すべくと存じトノ正否

病氣見舞の文

承れば御母上様御儀近頃御不快の由昨今は如何入らせらるゝか御案じ申し上げたり早速參上伺ひ申すべきなれど手離れかねる用向あり失禮ながら使を以て御見舞申し上ぐ此の品御病人の御口に適ふ事もあるべしと存じ進呈す猶御療養專一と存し奉る草々

(注意)草々ハイッガハシキ意奴々ト同シ早々ト書クハ非ナリ

類焼を見舞ふ

昨夜の出火早速御見舞申し上げしに貴家は已に御延焼の有様なれば空しく歸宅したりさりながら御怪我もあらせられざる由先は御不仕合中の御仕合と存す右御見舞の印迄に飯一櫃羹物一重持たせ上げたり使の者は御留め置き何になりとも御使ひ立て下されたし何れ後程參上萬伺ひ申し上くべし

書簡文作例

(注意)何なりともト何になりともトノ別

死去を吊ふ

御令息様御事折角御看護なされしにもかゝはらず御養生叶はせられず御死去なされたる由驚き入りたり玉摧け蘭枯る皆々様御愁傷の程御察し申し上ぐ此品麗末なから御靈前へ御備へ下されたし謹言

(注意)たしハ終止スル詞

玉摧け蘭枯るハヨキ人ノ若死ニタトフ

戦死したる人の父母を慰む

某様某地に於いて御戦死遊されたる趣血氣壯りの御年齢實に御一同の御嘆き如何ばかりと察し上ぐさりなから今度御戦死の節縦横御奮戦の有様は驚き入らぬものはなければ却て盡忠

報國の御素志にかなふ事と御明らめなさるゝ方然るべしと存じ奉る右御吊申し上げたたく此の如し

(注意)然るべしト存すと然るべくトノ正否

○祝賀に關するもの

年賀の文

追々長閑に春めき渡り御同様愉快の至なりさて今日御老母様八十八の賀の宴を開かるゝ由にて此方まで御招に預りありがたく存し奉る御老年にも似合せられず健なる御有様誠に南山の壽松竹の榮と羨しく存しぬ何れ後刻參上萬々御祝ひ申し上ぐべし頓首

(注意)參上ノ下ニ語ヲ畧シタリ

南山の壽松竹の榮ハ壽ヲ祝スルニ用フ詩經ニ出ツ

卒業を祝す

御子息様此度の誠驗結了滞りなく高等小學校御卒業なされたる由賀し奉る此後は尙中學校へ御入學國家の中堅たる中等國民に欠くべからざる學問知識を得させたまふべし右御祝として露國膨脹圖一折呈上す實に異様のものなれとも朝夕御學窓の友となし下されんことを望む

(注意)中堅ハ軍隊ノ中心ナリ

仕官を賀する

啓上此度御撰を受けさせられ陸軍歩兵少尉御拜命の由是迄御勉學の効今日に顯れたる事と存し奉る御承知の通り東洋の戰雲漲る折柄なれば尙此の上は粉身碎骨御國の爲御働き第一と存し奉る聊御祝として牛肉十斤まるらす御笑味願ひ奉る以上

同返事

ふつつかなる小生仕合せに引き立てを蒙り陸軍歩兵少尉拜命したるに早速御丁寧の御はめ詞に預り御祝儀をさへ頂戴いたしたるは殊に恥かしき至りなり方今豺狼頻りに四邊を窺へば尸を馬革に裏まん事聊決心まかりあり孰れ近日參上萬々御禮申し上くべし拜復

某月某日例の岳忠武の語を書せる幅の前にて答を認む

(注意)さへノ用法ニ注意スベシホメコトバニテアマレルニ祝物マテト云フ

コトダニト混スルナカレ

尸を馬革に裏むは戰陣ニテ死スルコト

岳忠武ハ宋ノ忠臣ニテ文臣錢ヲ愛マズ武臣死ヲ愛マズハ天下太平ナ

ラント云ヒシ人ナリ

新居落成を賀する

春來御着手の新宅此の頃御落成の趣平生の御注意にて造作向
 きより築山の松風池の面の小波まで定めて瀟洒の風を呈せる
 事と存し奉る就いては拜見かたく参上いたしたけれども用事
 取り込みのため手紙を以て御祝ひ申し上くかしく
 尙々鯛二尾御祝としてまゐらす御笑留を請ふ

同返事

近頃普請取り込み中とは申しながら御無沙汰の罪逃れ難し然
 るに御丁寧の御祝儀にあつかり謝し奉る尙近日落成の宴開き
 たきにつき其節は御出下さるゝやう前以て願ひ上く

(注意申しながらハト云へ、意申し上げ、申しハ敬語ナリ)

病氣全快を賀す

拜啓昨秋以來の御病氣全快の趣にて御床上げの赤飯御贈り下
 され謝し奉る長々の御病氣速に御本復如何と御案し申し居り
 しが此の後は花間の履月下の舟經を某堂に講し史を某會に談
 するなといつれも舊の如く御同伴を得んこと小生に於ても此
 の上なき幸なり右御祝として鯛一尾進呈仕る御留め置き下さ
 らば幸々甚々

(注意下さればハ下さればヨリ轉シテ用フレナリ)

議員に撰はれし人にかゝる

拜啓貴君此度議員撰擧の節大多數の投票にて御當撰なされた
 りとか實に御名譽の至りはた御苦勞の至りと存じ奉る承れば
 當村の教育衛生其他百般の事柄凡て他村より不行届きかちの
 由これ等は役場にてなすわざなれども議員達の奮發足らず刺
 戟稀なるもさし及ぼす事と信す何卒間接にも村民の爲に御盡

書簡作文例

力の程祈り奉る

(注意とかハ疑アリテ斷言セザルキニ用フ　はたハ又ト同シ)

婚姻を賀する

桃花天くたる折柄皆く様益御多祥賀し奉る承れば此程首尾能く御結婚濟ませられたる由めてたしともめてたし殊に御配偶は高等女學校御卒業にて今日有用の教育も十分にたちるふるまひまで御行き届きの由さそく御兩親様にも御喜ひの事と存じ奉る聊御祝儀として偕老一籠進呈仕る猶不日參上御祝詞申し上くべし謹言

同じき返事

拜見婚姻の御祝儀として御使ありがたく謝し奉る聊心祝として一盃呈したく存し居りたれど彼れこれ取り紛れ延引いたしぬ何れ近くの中時日を定め御出てを願ひ申すべし拜復

生産を賀する

近日來雨天打ち續き困り入るなり御令閨昨夜御分婉殊に將來護國の任に膺るべき御男子の趣き御一同様の御喜ひ如何ばかりと察し申し上く御二方壯健に入らせらるゝや御左右伺ひ奉るさて友仙染一疋鯛二尾御祝ひの印までに進呈仕る御叱留下されたし謹言

○誘引に關するもの

小學校參觀を約する文

拜啓當村學校も某訓導來任以來評判もよろしきは御同様喜ぶ書簡文作例

べき事なりかしさて生徒入學式は愈來ん五日午前九時施行す
とか御同様村内の重立にて不日議員にも當撰致すへき一回
も實地目撃せざるは慙愧千萬の事なれば心得のため參觀致し
置きたく御同意ならば御伴仕りたし草々

遊山をすゝむる

拜啓此頃は何處の雪も消え果てて若草やうく萌え出つる折
柄なれば彌彦山あたりの遊山さぞ面白かるべしとおもふ温故
の舉養氣の法一舉兩得なるべければ友たち誘ひあはせ一二泊
かけに出かけんは如何に御意見伺ひ申し上く

(注意温故ハ舊事ヲタツムルナリ養氣ハ元氣ヲ養フナリ)

納涼を約する

大暑中とは申しながら昨今の暑さ一入厳しく御同様困り入る
なり小屋などは夕刻に至りても更に涼氣を得難ければ納涼な
から夕飯後某邊へ遊歩致したし御暇ならば御同行は如何尤貴
寄宿舍門限十五分前には屹度歸るべき豫定にて歐米の下男下
女にも劣れる時間を誤る陋風は決してくなきものと御安心
の上御出かけを祈る

遠足せんとして遣す

御同様學科にひかれて一寸の暇なく罷りありしに幸ひ明日は
日曜日なれば引籠り居るも身體のため宜しからざるは勿論
我が國人が戶外運動を好まず室内に蟄居する風を打破するは
吾人の責任と信すれば某山より某川邊迄遠足して跋涉の快樂
を極めたし思召此者へ仰せこされたし御返事待ち奉る

(注意) 跋渉ハ山ヲ跋ミ水ヲ渉ルナリ

二八

同じ返事

仰せの通り日々忙しく困り居れりさて明日某山より某川邊へ遠足に御誘ひ下されしは随分面白き御企と大々賛成なり何卒御出てかけの節御道序に御誘ひ下されたし

(注意) 大々ハ莫大ト云ハンガゴトシ孔叢子ニ出ツ

東京見物を謀る

益御壯健賀し上々年來心懸け居れる東京見物父に問ひたるに然るべき道連れあらば承知せんとの事なり貴君には思召あらせられずや一週間も東京市内にあり夫より横濱及び横須賀の造船場まで参り數多の文明の事物を目撃したき心得なれば篤

と御考への上御返事下されたし

(注意) 數多ハアマリタル意ナリ多ヲ音讀ト思フナカレ

同じ返事

御多祥欣喜す東京見物に御誘ひ下され忝し小生も聊か感ずる所あり東京市中貧民生活の實況取り調べたく存し居りたれば勿論御同行致したく存じ父へ申し出てしに早速承知致しくれたれば今日より四五日も過ぎなは差懸りの用向きも相濟むべきにつき其思召にて日限御定め御申し越し下されたし

温泉行を勧むる

其の後は御無沙汰に打ち過ぎたれとも先つゝ御壯健の由欣喜の至りなり小生近くの内に熱海へ出かけんと存し居たり同

書簡文作例

二九

地は唯温泉の機能にとどまらず山川の景色も備り随ひて氣散しにも成るべき由なれば先生には御病後殊に御保養に適ふ事とおもはるゝにつき御同行いかゞ御誘ひ申し上く謹言

同じ返事

小生こそ却りて御無沙汰に打ち過ぎ多罪の至りにあれ時下秋冷なれとも彌御壯健羨しさて温泉行き御勧めに預り御親切拜謝し奉る當方にも醫師の勧めに従ひ先達てより相談致し居れど熱海は先年一度参りし故今年是他へ向をかへたしと存ず御意を枉けられ御同行を得ば實に仕合せなり尙明日運動なから罷り出て細に御相談仕るべし草々

演説會傍聽を約する

兩三年來當郡長の盡力にて通俗講談會も頻りに開會し社會教育の爲大に賀すべし今夕も郡長の發起にて七時より某校に於て縣下屈指の名醫某氏の衛生上の演説を催し幻燈をも使用せらるゝ由通知せられぬ時節柄緊要の事柄も多かるべければ傍聽する心得なり思召あらは御同行いたしたし貴意御示しを乞ふ

同じき返事

今夕某校の先生の衛生演説傍聽誘ひ下され有りがたし小生も廣告を見て獨りにてもと思ひ居りし折なれば御同行願ひたし就きては夕飯後直ちに貴宅までおとづれ申し上くべし草々

墓參に人を誘ふ

追々盆も近よりたるに付きては明日頃寺町へ御同伴叶ひ申さ
ずや祖父存生中にこしらへ置きし七草の花壇少く色めきたれ
は初咲き手向けたき心願なり御老母様にも御生前定めて御覽
なされし事と存すれば御伴の節は此の花持参仕るべく右御都
合御知らせ下されたし

(注意ベクノ下畧字アリタクト云ヒテ止ムル時モ此ニ同シ)

同じき返事

仰せ越されたる墓参同道の事賛成す實に日の立つ程早きもの
はなくこの間まで御花壇のことなと品評致しく老母をいまは
幽明を隔てて御花御手向け下されんこと實に夢の如し明日は
三時頃小生より御誘ひ申し上くべければ憚りながら御待ち下
されたし頓首

靖國神社参詣に誘ふ

拜啓本日は待ちくたたる靖國神社の祭りに當り感慨交々至る
とも申すべき日なり嘗て手を握りて分れし某氏なと容貌は今
も目前に現はれてその靈前に拜せんとは誠に夢かと疑はるさ
れと惠の露はなき人の上にもかかりて時を定めて其の祭を行
はせ給ふ畏き御代を彼の人は如何に嬉しく思ふらん角力競馬
たち騒ぐも一に此等國事に死したる人の靈を慰むるに外なら
ねば此を見んとて諸人の狂ひ競ふも彼の人々は嬉しところ見
るらめ三時頃より御伴して彼の昔の事共なにかくと語りあは
んはいかに御誘ひまで此の如し敬白

○贈答に關するもの

暑中氷塊を贈る文

書簡文作例

二三日このかた殊の外暑氣甚しきに如何御凌きなさるゝか小屋などは取りわけたへかたしさて此の氷塊は近つきの者より只今贈りこししにつき御分配申し上ぐ

(注意如何誰幾何等ノ下ニハ必ズヤキ用ヒスカチ用フルモノト知ルベシ)

牡丹餅を贈る文

苜り上げの祝とて只今某村の親類より牡丹餅一重贈りこし随分美味の様に思はるゝまゝ御配分申し上ぐあたたかき内に御めしあかり下されたし

同返事

甚た美そな牡丹餅御親類より御貰ひの由にて御配分に預りありがたし殊に子供等は直ちに一つ二つ頂戴いたし舌打して

相喜ひ居れり御禮までかくの如し

野菜を贈る文

後圃の西瓜漸く熟し今日初取り致しし故進上仕る風味如何あるべきか御試みの上思召にかなはば幾箇にても進上仕らん御遠慮なく仰せ越されたし

同じ返事

御後圃に御作りなされし西瓜御贈り下され早速拜味殊に上出来と感心仕れり就きては甚た笑止の至りなれども此の後御取り上げの折猶一つ御惠み下されたし御言葉の西瓜と共に甘きに任せて御願ひ申し上ぐかしこ

新板の書籍を贈るとして

三六

一筆啓上久しく御無沙汰仕りぬ平に御免下されたしさて當校某先生此程學生の心得と云ふ書籍御著しなされしに至極有益のものとして評判甚だ宜しく就中米國少年夜遊禁令の條などを讀めは眞正の自由はかかる處にあるべく存せらる是まで學校の命令を時として壓制なり束縛なり寄宿舎は干涉なり究屈なりなど人も唱へ我もしか思ひしはさてもくくと存せられ感誦の餘り一冊進呈仕りぬ御熟讀なされたし

同じき返し

御校教員某様御著述の學生の心得御贈り下されありがたく御禮申し上く仰の如く目今學生の弊を論せられたるは一覽の間にも承知せられたりさて通俗講談と云ふ新雜誌は此程當地に

て發兌せるものにて余程面白く空文空詩を並へたて實用に遠きものとは同日の談ならざる様思はるゝ故燈下の御友にもとて一冊進呈仕りぬ

(注意としてノ間ニ云ヒ若クハ思ヒ等ノ畧語アリ)

越後縮を贈る文

一書呈上暑さ催しゝに御家内様御機嫌能く入らせらるや久しく御伺ひ申さず御案じ申し上く私方は打ち揃ひ安らかなれば御心配なからんことを祈るさて名産の越后縮一反使を以て進上致すゆゑ御召し料に御供へ下されたし昨今暑氣日に増せば折角御自愛あれ憚りなから御内子様へも宜しく御申し聞けを乞ふ頓首

(注意)頓首拜答ノ如キイツレモスタ用フル動詞ナルヲ省キタルモノト知ル

同じ返事

御書を拜見す益御壯健之由誠に喜ばし私方も何れも無事なれば御安心下されたしさて越后縮一反御贈與に預り御親切謝し奉る御禮として紋紹一反御使に托せし故御納め下されたし猶愚妻よりも宜しく御禮申し上くる様申し出てぬ拜答

爲替金を贈る文

拜啓益々御繁昌賀し奉る本月三日御差し出しの商業全書工業通編體に到着せり右代價合せて金壹圓五十錢郵便税二十錢郵便小爲換にて本郷郵便局へ振り込みたる故御受け取り下されたし

○報知に關するもの

歸着を告ぐる文

私湯治のため羽前熱海に半月程過しよに學校の始業も近づきし故本日歸宅仕りぬ御暇にもあらせられなほ夕方より御いて下さるよやう願ひ上げ奉る拜白

及第を父母に告る文

久しく御無沙汰せること御宥し下されたしさて昨日にて漸く試験濟み首尾よく及第仕りぬ毎度御誠を受くる詰込主義の勉強は今回より斷然改めたるにどこともなく氣象も身體も快く暮し居ればこれまた御安心下されたし右御知らせまで此の如し